

は じ め に

デジタル化が急速に進む変化の激しい社会情勢の中、予測困難な未来を子どもたちがたくましく、しなやかに、こころ豊かに、人間としての強みを生かして生き抜くため、非認知能力や自ら考え解決しようとする能力の育成が求められます。

本年報は、加西市の教育基本理念『郷土を愛し 豊かに未来を拓く 人づくり』の実現を目指し、総合教育センターが令和6年度に取り組んできた事業等を振り返り、まとめ、検証し、次年度の更なる充実に資することを願って刊行するものです。

当センターは、平成23年4月に加西市教育研修所と加西市青少年センターを統合し本年度で14年目を迎えました。本市における教育推進施設として、研修講座の企画・運営、今日的な教育課題の研究と喫緊の課題への対応、発達支援、不登校対策、教育相談、生徒指導、家庭支援等、幅広い事業を実施しています。

本年度は「学校・家庭・地域に必要とされ、力となること」を当センターの存在意義とし、事業を展開し、支援の方策等を探って参りました。教育推進分野においては、教職員の資質・指導力向上に向け、学校現場のニーズに応えた研修講座を実施しました。また、育成支援分野においては、指導主事、警察OB、校長OB、スクールソーシャルワーカー(SSW)、臨床心理士、臨床発達心理士、弁護士等による「学校サポートチーム」を、積極的に機能させ、学校・家庭の支援に努めました。発達支援では、児童生徒の指導や環境調整を含めた学級経営の助言、生徒指導に関する未然防止・早期対応等の学校支援に努めました。課題である不登校に対しては、教育支援センター「ふれあいホーム」と全中学校に校内フリースクールを開室しました。また、4小学校に不登校児童支援員を配置し、不登校児童の支援も始めました。SSWが学校と連携して家庭と学校と加西市こどもサポートセンター等関係機関を繋ぎ、子どもや家庭に対し継続して支援できる体制を整えました。

当センターは、教育の今日的課題を多く担っています。そのことを肝に銘じ、学校現場の「縁の下での力持ち」的存在でありたいと思います。子どもたちが未来を生き抜くために必要な力を育成する取組を推進していく所存です。今後も、時代を超えて大切にしたい教育の「不易」の部分を持続しながら、時代の流れに応じた「流行」の部分に対応できるよう、学校・家庭・地域の支援に努めて参ります。

結びに、これまで心強いご支援とご指導をいただきました関係者の皆様、そして、講師先生の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。今後とも当センターの事業につきまして、より一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年3月

加西市立総合教育センター

所長 三 村 尚 彦

目 次

I	令和6年度事業概要	1
II	教育推進	
1	研修講座	5
2	自主研究活動グループ	9
3	I C T教育	10
4	図書コーナー	13
5	学校・家庭・地域の連携協力	16
III	育成支援	
1	健全育成	20
2	不登校支援	32
3	発達支援	36
4	教育相談	41
5	青少年育成	43
IV	参考資料	
1	研修講座報告	46
2	インターネットリーフレット	55

I 令和6年度事業概要

1 本市の「教育の重点」と事業の関連性

本市では、第3期加西教育プラン（加西市教育振興基本計画）（令和3年5月策定）に基づき、令和6年度「教育の重点」を作成し教育の一層の充実と振興を図った。当センターにおいても「教育の重点」の基本方針の実現を目指した。



【基本方針】主体的に自立しようとする子どもの教育の充実

学ぶ喜びを知り、持続可能な社会の造り手を育成します

- ・ 「加西B A S E」「加西S T E A M」「加西G L O B A L」の推進
- ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進
- ・ 「願いや希望のある授業づくり」の推進
- ・ 「切れ目のない特別支援教育」の充実

児童生徒の成長を支える学びの場を充実します

- ・ 教職員の資質向上、指導力向上に向けた研修講座の開設
- ・ 教育図書（資料）の拡充と移動図書館の実施
- ・ 自主研究活動グループの支援
- ・ 子どもの基本的な生活習慣の確立に向けた支援

児童生徒理解を基盤とした生徒指導体制を推進します

- ・ 子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実
- ・ 学校・家庭・地域・関係機関の連携を強化し、いじめの未然防止、いじめ問題への迅速かつ組織的な対応
- ・ 不登校児童生徒の状況に応じた適切な支援
校内の組織体制の整備と保護者との課題意識の共有
- ・ 発達相談、各種検査、発達支援プログラム等の実施
- ・ スクールソーシャルワーカーによる家庭支援等

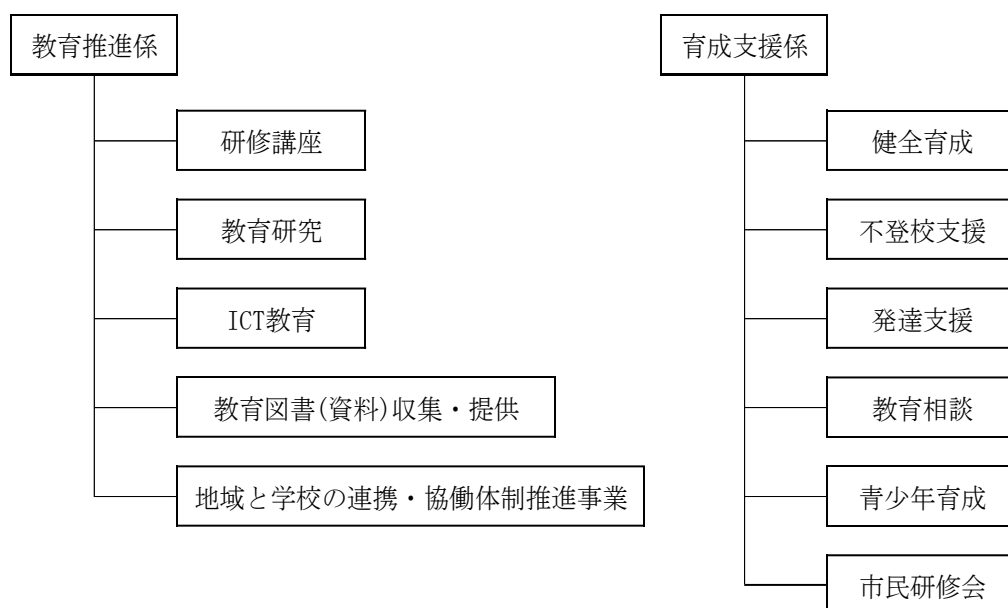
地域とともにある学校づくりを推進します

- ・ 家庭の教育力の向上をめざした「すこやか”ねひめっこ”は家庭から」の支援
- ・ 地域と一体となった青少年健全育成活動の推進
- ・ 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の推進
- ・ 地域と学校の連携・協働体制の推進

2 事業概要

（1）組織と事業内容

総合教育センターは、下記の組織図のとおり教育推進係と育成支援係の2係を設け、事業を体系化して実施している。



(2) 総合教育センター重点事業

昨年度の事業を検証し、本年度は下記の4つを重点事業として取り組んだ。

ア 教職員の指導力向上（研修講座の充実・研修機会の拡充）

「学校現場のニーズに合った実効性のある研修講座」を目指し、昨年度末の「研修講座に係る教職員アンケート」の結果を踏まえ、40講座を開設した。教職員のキャリアステージや専門分野に応じた講座、ICT利活用促進や情報モラル教育等の新しい教育に向けた講座、教師力向上講座、授業改善や発達支援といった喫緊の教育課題に向けた講座、校内研修・教科担当者会とコラボレーションした講座等を計画・実施した。

また、教職員にとって、総合教育センター所蔵図書がより実用的なものとなるよう購入希望図書調査を行い、本年度は200冊の新規図書を購入した。教職員の自己研鑽と利便性向上のため、「移動図書館」を実施した。

イ 生徒指導力向上と体制構築（いじめ防止の取組の推進）

「加西市子どもいじめ問題対策審議会」において、加害者が特定できなかったいじめ事案や多様化・複雑化する保護者対応の事案を含めた、いじめ防止と早期発見・組織的対応について協議した。また、いじめ対応加西市ネットワーク会議において、具体的ないじめ事例をもとに指導の検証を行うなど、いじめ見逃しゼロを目指した実践的な研修を行った。いじめ防止啓発への継続した取組として、いじめ防止運動作品展の実施、いじめ防止啓発チラシや健全育成カレンダー・クリアファイルの作成、非行防止・健全育成キャンペーンでの配布等を行った。

多様化・複雑化・困難化する生徒指導に対して、学校・警察・総合教育センター連絡会(等で、情報交換、研修にも取り組んだ。

ウ 不登校に関する未然防止対策と支援の推進

「ふれあいホーム」において、体験入学や校外活動等を通し、個々の状況や特性に応じた学校復帰や進学に向けて計画的な支援を行った。また、多様な学びと居場所の提供として校内フリースクールを全中学校に開室し、不登校生支援が広がった。

SSWが各校生徒指導委員会、不登校対策委員会等に出席し、学校やスクールカウンセラー(SC)と情報共有・連携を図るなど、学校サポートチームとしての役割を強化した。さらに「す

まいるりんくネットワーク連絡会」により、不登校児童生徒についてアセスメントや情報共有等を行い、長期的な展望のもとにそれぞれの専門分野の関わりで、義務教育終了後のひきこもり予防の推進に努めた。

エ 児童生徒の特性や状況にあった発達支援の推進

発達支援アドバイザーによる発達検査や発達に関する教育相談を実施し、児童生徒のソーシャルスキルや保護者に対して家庭での支援方法の助言を行った。また、発達支援アドバイザーが学校訪問をし、児童生徒のアセスメントや情報共有を行い、教員に対し支援方法や学校環境調整の助言を行った。「発達支援プログラム」では、小学生対象に個々の特性に応じたトレーニングを計画、実施した。学校や保護者との連絡会や面談を通して、情報共有や支援方法について確認するとともに、講師を招聘してペアレントトレーニング等の保護者研修も実施して学校・保護者のニーズに応えた。

(3) 総合教育センター運営委員会

総合教育センター運営委員会は、総合教育センター条例施行規則に基づいて設置しており、委員は7名で構成している。本年度は下記のとおり2回の委員会を開催した。

回数	日 時	場所
第1回	令和6年7月5日（金）15:00 ～ 16:30	総合教育センター
第2回	令和7年2月26日（水）15:00 ～ 16:30	総合教育センター

第1回の委員会では、事業概要について説明するとともに、本年度重点事業と位置づけた事業内容や昨年度の課題を踏まえた取組等について説明し、意見をいただいた。

第2回の委員会では、本年度の事業報告と成果・課題等について説明し、来年度に向けた事業等について意見をいただいた。

委員会においては、各委員からの要望や様々な視点からの率直な意見をいただき、各事業についての点検に加え、今後の取組について多くの示唆を得ることができた。

(4) 来年度の重点事業

本年度の事業を検証し、来年度は次の事業を「重点事業」と位置づけ、更に充実した事業を展開し、センター機能を高めたい。

ア 教育推進

- ・ 教職員研修講座の更なる充実
 - 専門性と実践的指導力の向上（教職員の指導力向上）
 - 基礎・基本を中心とした学力向上にむけた授業力向上（「加西 BASE」）
 - いじめや不登校の未然防止にもつながる学級経営力向上（安全安心な学級）
 - キャリアステージに応じた教職員研修
 - ニーズに応えた研修講座（新しい教育、喫緊の課題）
- ・ 1人1台端末の効果的活用を含む授業改善の支援
- ・ 学校を核とした地域連携促進事業の充実（学校運営協議会の推進）

イ 育成支援

- ・ 加西市いじめ防止条例、基本方針に基づく取組の推進
- ・ インターネット等使用に関する家庭への啓発（保護者研修の推進）

- ・ 生徒指導に係る教職員の研修（相談、学・警・総、いじめ対応加西市NW会議）
- ・ 不登校支援体制の見直しと充実
 - 校内支援体制の見直し（未然防止と早期対応の強化、具体的対応）
 - ふれあいホーム・校内フリースクール・サポートルームの充実
 - 不登校児童支援員配置
- ・ 発達支援に係る早期支援
- ・ 発達支援に係る教職員の研修（相談、スキルアップ）
- ・ 虐待やひきこもり等の予防と家庭支援（SSW、加西市こどもサポートセンターとの連携）

Ⅱ 教育推進

教育推進係は、研修講座の開設や教育研究等、次の5つの事業を推進した。

- ① 教職員の研修に関すること
- ② 教育研究に関すること
- ③ I C T教育の推進に関すること
- ④ 教育図書（資料）の収集・提供に関すること
- ⑤ 地域と学校の連携・協働に関すること

1 研修講座

教職員の資質・能力等の向上をねらいとして、本年度も、

- A 対象となる教職員が受講する講座
- B 対象となる教職員と希望する教職員が受講する講座
- C 希望する教職員が受講する講座
- D 特別講座

の4種類を設け、40講座を開設した。

昨年度末に実施した「研修講座に係る教職員アンケート」結果を十分に考慮して計画した。内容としては、教職員のキャリアステージや専門分野に応じた講座、I C T利活用促進や情報モラル教育等の新しい教育に向けた講座、教師力向上講座、授業改善や発達支援といった喫緊の教育課題解決に向けた講座、校内研修・教科担当者会とコラボレーションした講座等である。

実施にあたっては、小・中・特別支援学校教職員はもちろん、公立だけでなく私立を含めたこども園教職員等も参加できるように、時期や日程等を配慮した。

また、昨年度から始まった新たな研修制度に伴って導入された「教職員研修管理システム」を活用しながら、対話に基づく受講奨励が行われ、研修申込み等や研修履歴の蓄積ができた。



【教育講演会】

(1) 講座開設内容

A 対象となる教職員が受講する講座（10講座）

	講 座 名	講 師（所属）	期 日	場 所	参加数
1	教育講演会 ※ハ	伊藤 美奈子 (奈良女子大学教授)	7/25	加西市健康福祉会館	295
2	新任教員研修（1）	学校教育課 指導主事	6/20	宇仁小学校	17
3	新任教員研修（2）		7/30	富田小学校	17
4	新任教員研修（3）		10/8	北条中学校	16
5	若手教員研修	橋本 憲 (総合教育センター 指導主事)	8/7	総合教育センター	21
6	中堅教員研修	小坂 卓司 (学校教育課長)	10/7	加西市民会館 視聴覚室	18
7	ベテラン教員研修	小林 剛 (元加西市立小学校長)	11/19	総合教育センター	33
8	教育経営	菅野 恭介 (加西市教育長)	8/26	総合教育センター	32
9	管理職研修	當山 清実 (兵庫教育大学大学院教授)	7/26	総合教育センター	23
10	事務職員研修	沼澤 郁美 (社会保険労務士事務所長)	8/1	総合教育センター	18

B 対象となる教職員と希望する教職員が受講する講座（14 講座）

11	加西っ子の学びセミナー	國野 大樹 (学校教育課 主任指導主事)	1 / 24	総合教育センター	34
12	授業改善実践 (1)	山内 敏男 (兵庫教育大学教授)	8 / 20	総合教育センター	23
13	授業改善実践 (2)	大西 慎也 (神戸学院大学教授)	8 / 5	総合教育センター	31
14	生徒指導	新井 肇 (関西外国語大学教授)	10 / 28	総合教育センター	18
15	ジョリーフォニックス研修	山下 桂世子 (ジョリーフォニックス公式トレーナー兼ジョリーフォニックス公式トレーナー)	8 / 6 8 / 7	富合小学校	20
16	教科指導 (書写)	山内 有香子 (神戸女子短期大学教授)	7 / 29	総合教育センター	23
17	教科指導 (算数)	加藤 久恵 (兵庫教育大学教授)	6 / 5	北条小学校	39
18	教科指導 (図工)	高見 雅博 (一般社団法人示現会兵庫支部長)	8 / 5	北条小学校	26
19	教科指導 (数学)	川内 充延 (兵庫教育大学准教授)	10 / 10	北条中学校	15
20	教科指導 (理科)	永長 英夫 (元加西市立中学校教諭)	11 / 21	泉中学校	10
21	教科指導 (保健体育)	山田 明 (元加西市立中学校校長)	11 / 21	加西中学校	11
22	教科指導 (英語)	市内全 ALT (ボーダーリンク)	7 / 31	富合小学校	39
23	小学校道徳授業実践	龍神 美和 (桃山学院教育大学准教授)	11 / 26	賀茂小学校	30
24	中学校道徳授業実践	谷田 増幸 (兵庫教育大学教授)	10 / 3	加西中学校	27

C 希望する教職員が受講する講座（13 講座）

25	教師力向上研修(1)	中山 芳一 (岡山大学教育推進機構准教授)	8 / 30	加西市民会館	中止
26	教師力向上研修(2) ※兵庫教育大学連携講座	真田 穰人 (兵庫教育大学教授)	8 / 6	総合教育センター	11
27	情報教育研修 ※オ	塩田 真吾 (静岡大学准教授)	11 / 21	総合教育センター	11
28	I C T活用による 授業改善 (1)	I C T支援員	8 / 7	総合教育センター	29
29	I C T活用による 授業改善 (2)	I C T支援員	8 / 27	総合教育センター	21
30	特別支援教育研修(1)	原田 芳彰 (播磨西教育事務所学校問題サポートチーム 特別支援教育推進員)	9 / 6	加西特別支援学校	51
31	特別支援教育研修(2)	三木 崇弘 (社会医療法人恵風会高岡病院 児童精神科医)	12 / 3	加西市民会館	92
32	特別支援教育研修(3)	川野 みか (ひょうご発達障害者支援センター クローバー加西ランチ)	8 / 29	加西市民会館	56
33	児童生徒支援	橋根 千尋 (総合教育センター臨床心理士)	9 / 6	総合教育センター	32
34	授業改善(1)	ちよんせいこ (株式会社ひとまち代表)	6 / 25	総合教育センター	12
35	授業改善(2)	藤本 和久 (慶応義塾大学教授)	11 / 1	北条小学校	29

36	幼小連携	水落 洋志 (兵庫教育大学講師)	7/26	加西こども園	10
		各こども園・幼児園保育教諭	7/25	北条ならの実こども園	15
			7/31	賀茂幼児園	17
			8/1	泉よつばこども園	21
37	幼児教育研修	鈴木 正敏 (兵庫教育大学教授)	7/27	加西市健康福祉会館	55

D 特別講座（3講座）

38	イングリッシュキャンプ	契約英語講師 (株式会社アチーブゴール)	8/19 ～ 8/23	オークタウン加西	26
39	学力向上研修	葛原 祥太 (葛原学習研究所長)	9/12	加西市民会館	47
40	学校運営協議会委員研修	恋田 祐爾 (多可町教育委員会学校教育課長)	5/31	加西市民会館	74

※ハ…ハイブリッド開催 ※オ…オンライン開催

（２）講座受講後のアンケート

講座終了ごとに、受講者にアンケートを実施した。講座の精選と内容の更なる充実を期し、受講者や学校（園）現場のニーズに適合していたか、教育（保育）実践に有益であったかの評価を求めた。結果、５段階評価で、全評価の平均は 4.65 で、講座への満足度が大変高いことを示している。

また、意見欄に書かれていた感想と要望や改善してほしい点の主なものは次のとおりである。

ア 感想

【講師】

- ・普段から職員に伝えていることを、大変分かりやすく、また具体的に話をしていただきありがたかった。教育講演会として、聞きやすく好感のもてる良い講師だった。
- ・講師先生のお話が大変興味深く、実践してみようと思った。ベテランの知恵や技能を伝えてもらえる貴重な機会として続けてほしい。
- ・講師先生の生き方に触れ、自分自身が人としてどう生きていくのかを考えさせられた。
- ・講師先生の温かいお人柄が良かった。障害受容に関する保護者の心理についてのお話が特に心に残った。分かっているつもりでも認められない自分を責めるというところで、保護者の気持ちにより添える教師でありたいと思った



【教育経営講座】

【内容】

- ・これまで情報モラルとなると、どのような種類があるのか、どうしてダメなのかということばかり話していたが、どのような時にトラブルが起きるのかを考えさせたり、考え方の違いを可視化したりすることで自分事として捉えられるのだと感じた。
- ・体育教師として、改めて体育を中学校で教えることの大切さと責任を感じた。今後も生涯スポーツという視点を持って、生徒が将来に生きる力を育てられるように努めたい。
- ・生徒指導について、その根本の考え方や願い、または現在の不登校やいじめ等の現状について学ぶことができた。組織的な対応については、日頃からの職員間の関係づくりが、有事の際にもそのまま活かしてくるのではないかと考えた。
- ・知らないことを知る面白さを改めて実感した。なんで？知りたい！は授業にとって一番大事であり、子ども達にそう感じさせる問いをしっかりと考えていきたい。

【方法】

- ・実際に子どもとなって授業を受けることで、ワクワク感を感じた。担任している子たちが同じ気持ちになれるよう、単元計画をたてていきたい。
- ・園児と保育教諭との対話による伝え合いの姿、あそびの中で学ぶ園児や教諭の主体的な姿が小学校においても共通して重要な姿だと実感した。
- ・硬筆から毛筆への繋げ方や、授業の流れを模擬授業として実践してくださったことで、すぐにでも自分の授業に取り入れることができると感じた。
- ・提案授業を見せていただき、学級経営がうまくいっているからこそ、誰がどんな発言をしても良いのだという温かい空気のもとで授業ができることを改めて感じた。

イ 意見・要望

- ・学校再編という大きな課題を控えているため、スムーズに組織統合し、学校運営していけるよう必要な準備や実践事例についての研修があってもよい。
- ・講座ごとにテーマを決めて、数回継続した研修ができればよい。
- ・学期中の開催になると、どうしても授業等が気になって参加できないこともあるため、可能な限り長期休業中に開催していただけるとありがたい。
- ・生徒指導や情報モラルなど担当者だけが受講するのではなく、若手教員を中心にもっと幅広く受講できるように呼びかけ方を工夫してほしい。

(3) 成果と課題

「教職員研修は子どもの学びの相似形」の言葉どおり、単なる講義型の研修からの転換を図り、必要に応じてグループワークやＩＣＴ機器の活用を取り入れた実践的な研修を実施することができた。また、研修効果の高い対面型研修を基本としながら、状況に応じてオンラインまたはハイブリッド型の研修も開設するなど、より受講者のニーズに沿った形で実施することもでき、講座全体を通して高い評価が得られた。

研修講座を振り返っての、おもな成果と課題は次のとおりである。

ア 成果

- ・加西市においても喫緊の課題となっている不登校児童生徒の支援のあり方について、市内全教職員で考える機会を持つことができた。(教育講演会)
- ・加西市の教育を熟知した退職校長をはじめ退職教諭や教育委員会の指導主事等を講師に招聘することで、教職員の意欲をより一層喚起し、キャリアステージや担当分野に応じた研修ができた。(小坂卓司氏：中堅教員研修、高見雅博氏：教科指導(図工) 等)
- ・民間から講師を招聘することで、新たな視点で教育課題を考えることができた。(山下桂世子氏：ジョリーフォニックス研修、ちょんせいこ氏：授業改善(1) 等)
- ・校内研修や教科担当者会と共催することで、現場が希望する研修を市内教職員に広めることができた。(教科指導(数学)、特別支援教育研修(1)、授業改善(2) 等)

イ 課題

- ・時代や社会の変化に合わせた研修観の更なる転換を図る。
- ・いつも同じ担当者が受講しており、良い研修内容であっても横へ拡がりにくいため、受講対象者を工夫する必要がある。
- ・研修講座の受講により、学校運営や教職員の負担が大きくなるように、できるだけ講座開設の時期、時間帯を精選する。
- ・集合型研修とオンライン研修の特性や利点を検証し、差別化を図るなど研修効率や質の向上を目的としたＩＣＴ活用の更なる工夫と促進を図る。



【若手教員研修講座】



【児童生徒支援講座】

(4) 来年度に向けた講座アンケート調査結果

すべての講座が終わった1月に、本年度の研修講座の検証と、次年度の一層の充実、教職員が受講しやすい環境整備に向けて、全教職員を対象に研修講座全体に対するアンケート調査を実施した。

以下はその概要である。

ア 研修講座による資質向上の自己評価

総合教育センター研修講座は自身の教職員としての資質向上(知識・スキルアップを含む)に役立ったか。(5段階評価)

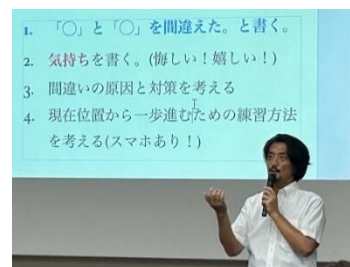
5	145人	4	145人	3	25人	2	2人	1	0人	平均 4.35
---	------	---	------	---	-----	---	----	---	----	---------

イ 教職員が希望する講座内容

- | | |
|----------------------|---------------|
| ・教科指導(国、書、算、数、図、美、体) | ・学級経営 |
| ・生徒指導、不登校 | ・特別支援教育 |
| ・児童生徒支援 | ・情報教育、情報モラル教育 |
| ・教師力向上 | ・教育経営、危機管理 |
| ・学力向上 | ・学校統合対応 |
| ・授業改善 | ・ICT活用による授業改善 |

ウ 講座への意見・要望等

- ・学校の小規模化、教員の若年化により教師間での学びや教科指導について考える機会が減少している。働き方改革ばかりが取りざたされ、自ら進んで学習会に参加し、授業力を向上させようとする雰囲気希薄になっているように感じる。経験年数に関わらず全教員が今一度考える機会となるような研修が必要だ。
- ・今年度の講師陣は充実していた。(その道のスペシャリスト、身近な先輩など)来年度も聞いてみたいと思える講師先生をお願いします。夏季休業中であればゆとりを持って受講し2学期からの実践に生かせる。
- ・社会経験がないままに教師になることでマナーや常識の欠如を指摘されることがある。コミュニケーションスキルをはじめ、一社会人として通用するように学ぶ研修が必要かと思う。
- ・未来を担う子どもたちの育成という視点から、今教育に求められていることは何か、教師はどうあるべきか。「不易」、「流行」を含め、今の時代に求められていることをもっと学び、教師が変わらないといけない点を学びたい。
- ・小中学校の再編に伴い、様々な課題が出てくると思われる。我々が今できる生活・学習面の指導方法のすり合わせやスムーズな移行につながる取組を学び、実践していく必要があると感じる。



2 自主研究活動グループ

(1) 趣旨

教職員の指導力や資質能力の向上に資するため、教職員が自主的に構成するグループの研究や研修活動を支援する。

(2) 活動支援と研修内容

本年度、希望グループなし。

3 ICT教育

(1) 概要説明

令和2年10月、加西市立小・中・特別支援学校の児童生徒一人一人に1台のChromebookが貸与され、いわゆる「ファーストGIGA」から4年の運用期間を経て、取組の成果と課題について分析・考察を丁寧に行い、「セカンドGIGA」に向けての方向性を見出す時期となった。

年を重ねるごとに活用頻度は高まり、一斉・個別・協働、各学習場面で工夫された授業実践が蓄積されてきた。これも、総合教育センター主催の研修講座やICT支援員の支援をはじめ、取組事例の共有に努めたことなどが功を奏したものとする。

一方、活用促進の裏側では、教職員間のスキルの差が顕著になるとともに、アプリの濫立により統一感がもてないという課題も露呈してきた。昨今、著作権問題や生成AIの活用の是非等、新たな課題も現れ、課題は山積している。

(2) ICT教育推進にあたって

活用するICT機器、アプリや機能の選定、操作能力をどのレベルまで求めるのか等、加西市のスタンダード化のために教職員間の共通理解を図った。

ア ガイドライン周知徹底

「Chromebookの活用に係るガイドライン Ver.2」の教職員への周知徹底を図った。

イ 習得の指針設定

各種アプリや機能について、習得のレベルをステップ分けした「【児童生徒用】ICTスキル指標」と「【教師用】ICTスキル指標」の2種を作成し、目標を設定した。また、習得のレベルを問うアンケートを実施して、傾向を分析し、今後の研修内容や支援の方法についての参考とした。

ウ 各種会議開催

	会議名	参加者	目的	回数
1	情報教育推進連絡会	関係機関・小中担当校長	企画調整	随時
2	小・中・特合同情報担当者会	担当者・小中担当校長	協議・決定	随時
3	ICT支援員連絡会	ICT支援員	情報交換	月1回

(3) 教職員のスキルアップ

ア 総合教育センター研修講座

	講座名・研修内容	講師等	期日
1	ICT活用による授業改善(1)	ICT支援員	8/7
2	ICT活用による授業改善(2)	ICT支援員	8/27
3	情報教育研修	塩田 真吾 (静岡大学准教授)	11/21

昨年度の振り返りをもとに、教職員のニーズに沿って実施した。

- 授業改善を目的とし、ICT機器活用のもと、より効果的な指導方法についての研修に重点をおいた。

「ICT活用による授業改善講座」は、6つのアプリのブースを用意し、希望選択し受講する形をとった。

- プログラミング研修は、「ICT活用による授業改善講座」に組み込み、加西市に導入している「KOOVキット」を活用する授業実践を取り入れた。



- ・Chromebook に搭載されているアプリや機能の基本操作研修は、ICT支援員の支援を前提として各校での研修を重視することにした。

イ ICT支援員によるサポート

小・中・特別支援学校、16校に7名のICT支援員が週1日程度配置されている。ICT機器活用時に効果的な指導を展開するためのアドバイスをを行うとともに、教職員の業務改善にも資することを目的としている。

- ・アプリや機器の設定等についての教職員研修やアドバイス
- ・機器操作に係る児童生徒への支援、質問や安易なトラブルの対応
- ・機器やネットワークの不調を情報課へ報告
- ・活用事例の収集と紹介
- ・校務処理効率化のためのアドバイス

ウ 情報提供

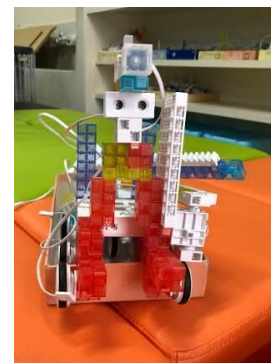
蓄積してきた授業実践の資料や各種マニュアルを総合教育センターが発信している。

- ・機器の設定やアプリの操作等、紙ベースや動画でのマニュアル作成と提示
- ・各校や各種団体が実践している事例の収集と提示
- ・近隣市町や他府県の活用事例や運営方法を収集し提示
- ・加西市ホームページの加西市教育委員会コンテンツに市民向けのページを提示

(4) ハードウェア・ソフトウェアの保守と充実

情報課・教育総務課と連携を図り、学校の実態とニーズを把握し、ハードウェア・ソフトウェアの保守と充実の支援にあたった。

- ・Chromebook の家庭への持ち帰り時、ネットワーク環境が整備されていない家庭へのモバイルルーター貸出の調整にあたっている。
- ・電子黒板、ZoomRoomsをはじめ、効果的な活用を実現するためのICT機器の充実を図っている。
- ・創作ブロック「加西KOOVキット」を各校に貸出し、プログラミング教育の充実を図るとともに、年間指導計画案を作成し、ICT支援員による授業支援体制を確立した。



【KOOV 創作キット】

(5) 成果と課題

ア 成果

- ・教職員の共通理解のもとで作成されたガイドラインに沿って、各校同様の運営を進行している。
- ・「【児童生徒用】ICTスキル指標」・「【教師用】ICTスキル指標」を改訂し、スキル面での目標を設定したことにより、学年に応じたスキルの育成につながっている。
- ・各種会議を開催することにより、教職員の共通理解を得た。
- ・行政各課とICT支援員との密な連携により、迅速にトラブル対応ができた。
- ・実践事例集や各種マニュアルの提示により、より効果的な授業実践と利活用促進の一助となった。
- ・ICT支援員1名を総合教育センターに配置することにより、機器のトラブル対応や授業支援を、容易かつ円滑に行うことができた。
- ・年間指導計画とICT支援員の支援体制が確立されたことにより、プログラミング教材「加西KOOVキット」の活用が標準化しつつある。

イ 課題

- ・教職員のアプリや機能の操作スキルは向上しつつあるが、個人差はある。
- ・デジタルドリルの新調をはじめ、搭載するアプリを厳選し、スタンダード化する必要がある。
- ・ICT支援員が、機器の不具合、Wi-Fiの接続状況等、不測の事態や、新しい機器、アプリ、統合システム等の新規導入と更新への対応が困難な場合がある。
- ・活用頻度が高くなるに連れ、著作権法遵守、生成AIの活用、個人情報の管理、健康面への配慮等、リスクマネジメントの必要性が高まっている。

ICTスキル指標（児童生使用）					令和6年度版	
アプリ	Chromebookの扱い	ロイロノート	クラスルーム	スライド	ブ'お'ラミン' (スカラー)	ブ'お'ラミン' (KOOV)
ステッ プ	5	☐ タッチタイピングでキーボード入力ができる。	☐ 適切な「シンキングツール」をえらび使うことができる。			
	4	☐ タイピングアプリを見ながら正確な指使いで入力できる。	☐ 「アンケート」機能を使ったカードを作成できる。	☐ 「Google Forms」でアンケートを作成できる。	☐ アニメーション機能の操作ができる。	☐ プログラムを制作できる。
	3	☐ Googleドライブから目的のファイルを見つけることができる。	☐ 「シンキングツール」で適切な位置にカードの配置ができる。	☐ 「Google Forms」の回答ができる。	☐ 共有ファイル上で協働作業ができる。	☐ 移動のセンサーを用いたプログラムを組むことができる。
	2	☐ フォルダの作成・削除ができる。	☐ カード上で協働作業ができる。	☐ 共有ファイル上で協働作業ができる。	☐ スライドショーを実行できる。	☐ プログラムの編集・読み取りができる。
	1	☐ ファイル名の変更ができる。	☐ 「質問」や「返事」欄からカードを取り出すことができる。	☐ 「チャット」を送ったり受たりすることができる。	☐ プログラムのコードの編集が可能な。	☐ センサーを用いたプログラムによって動作を制御することができる。
ブ	5	☐ カメラ機能を使うことができる。	☐ 「質問」欄にカードを提出できる。	☐ 「Meet」でマイクやカメラのON・OFFができる。	☐ スライドのコピー、挿入、削除、移動ができる。	☐ コードと各パーツの接続ができる。
	4	☐ カメラ機能を使うことができる。	☐ 写真やビデオを取り込むことができる。	☐ 「Meet」に参加できる。	☐ 写真を取り込むことができる。	☐ コードの接続ができる。
	3	☐ 書き込みのアプリを選択できる。	☐ 「質問」欄にカードを提出できる。	☐ 「Meet」でマイクやカメラのON・OFFができる。	☐ スライドのコピー、挿入、削除、移動ができる。	☐ コードと各パーツの接続ができる。
	2	☐ 書き込みのアプリを選択できる。	☐ 「質問」欄にカードを提出できる。	☐ 「Meet」でマイクやカメラのON・OFFができる。	☐ スライドのコピー、挿入、削除、移動ができる。	☐ コードと各パーツの接続ができる。
	1	☐ 書き込みのアプリを選択できる。	☐ 「質問」欄にカードを提出できる。	☐ 「Meet」でマイクやカメラのON・OFFができる。	☐ スライドのコピー、挿入、削除、移動ができる。	☐ コードと各パーツの接続ができる。

ICTスキル指標（教師用）				令和6年度版		
アプリ	Chromebookの扱い	ロイロノート	クラスルーム	スプレッドシート	スライド	
ステップ	5	□様々なファイルとChromebookとの互換性を理解し、取り込むことができる。	□「クラス」を設定し、児童生徒を登録できる。	□管理ツールで「グループ」を構成できる。	□指定した項目で、データを抽出できる。	
	4	□Chromebookが備えている「拡張機能」（無料、自動読み取り機能等）を設定し、操作できる。	□「カード」や「返事」をダウンロード・アップロードができる。	□「検索」機能を活用できる。	□データを用いて、裏面印刷ができる。	□アニメーション機能の指導ができる。
	3	□新規ログインの指導ができる。	□「シンキングツール」が活用できる。	□「Forms」で作成したシートを回答させ返信させることができる。	□指定した列や行で、データを並び替えることができる。	□共有ファイル上での協働作業の指導ができる。
	2	□マイドライブ、共有ドライブの使い分けができる。	□共有「ノート」の活用方法を指導できる。	□「Forms」でアンケートやテストのシートを作成できる。		□スライドショーを実行させることができる。
	1	□ブックマークの登録、管理ができる。	□提出されたカードの一部、または全員分の児童生徒に提示できる。	□「Meet」で会議中、「画面共有」機能を活用できる。		
ブ	5	□フォルダの作成、削除を指導できる。	□提出されたカードを並び替えて無署名にしたりの操作を共有したことがある。			
	4	□ファイル名を変更する指導ができる。	□カードを印刷できず、プレゼンテーションのように表示できる。			
	3					
	2					
	1					
ブ	5	□QRコードを読み取らせることができる。	□「提出」を作り、児童生徒に提出させることができる。	□「Meet」で会議中を設定し、児童生徒に参加させることができる。	□合計・平均の関数を用いることができる。	□スライドのコピー、挿入、削除、移動の方法を指導できる。
	4	□カメラ機能の指導ができる。	□「カード」を児童生徒に送ることができる。	□「Meet」のリンクを設定できる。	□グラフを表示できる。	□写真を読み取り方法を指導できる。
	3	□目的のアプリを選択する方法を指導できる。		□「クラス」をアーカイブしたり復元したりできる。		□図形や線を結び込む方法を指導できる。
	2	□ローマ字キーボード入力法の指導ができる。				
	1	□手書きパッドの設定と、使い方を指導できる。				
ブ	5	□Chromebookの画面を大型画面に映し出すことができる。	□「資料帳」内のフォルダにカードを保存できる。	□「提出」で提出された課題を群読して、児童生徒へ返却できる。	□セルに数値・文字の入力ができる。	□文字入力法の指導ができる。
	4	□ログインの指導ができる。	□「ノート」を新規作成できる。	□「返事」で課題を提出させることができる。	□セルに幅を調整できる。	
	3	□児童チャットネットの解凍、解凍を指導できる。	□「返事」を追加できる。	□「返事」で課題を送信できる。	□セルの幅を調整できる。	□「テーマ」を呼び出す指導ができる。
	2			□「ストリーム」でメールの送受信ができる。	□時鐘を止めることができる。	
	1			□「メンバー」の参加状況を確認できる。		
ブ	5		□「クラス」を解除し、児童生徒を招待できる。			
	4					
	3					
	2					
	1					

4 図書コーナー

図書コーナーでは、いじめ・不登校などの生徒指導関連の本、学校経営や学級経営、小・中学校各教科の授業づくりの本、特別支援教育や幼児教育の本など 3400 冊あまりを配架し貸出を行っている。貸出の主な対象は小・中・特別支援学校や公立こども園の教職員であるが、加西市立図書館に利用者登録（図書館カードの発行またはスマート登録）すれば誰でも利用することができる。



教職員向けには、貸出希望により本を配送する「総合教育センター移動図書館」を年 4 回（5 月、7 月、8 月、12 月）実施し、教職員の自己研鑽や研修に努めている。教職員のニーズに応え、研修の充実や有効な学習教材の整備のため、新規購入図書の希望調査を教職員に実施している。

また、毎月 13 種類の教育雑誌を購入し、配架するとともに貸出も行っている。

（1）所蔵状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

蔵書数は、昨年に比べ、図書では 207 冊増加し 3406 冊となった。教育雑誌は、今年度 156 冊購入し 1389 冊となった。

ア 図書（3406 冊）

分 類	冊 数	分 類	冊 数
生徒指導	379 冊	特別支援教育	425 冊
学校経営	510 冊	学級経営	157 冊
授業づくり	219 冊	教師力	49 冊
特別の教科 道徳	102 冊	特別活動・総合的な学習の時間	84 冊
幼児教育	142 冊	小学校教科	589 冊
中学校教科	255 冊	加西市関係	45 冊
教育関係	157 冊	その他	293 冊

イ 教育雑誌（1389 冊）

教育雑誌名（出版社）	冊 数	教育雑誌名（出版社）	冊 数
兵庫教育（兵庫県教育委員会）	636 冊	指導と評価（日本図書文化協会）	60 冊
たのしい授業（仮説社）	60 冊	教育（かもがわ出版）	60 冊
道徳教育（明治図書）	60 冊	授業力&学級経営力（明治図書）	60 冊
月刊学校教育相談（ほんの森出版）	60 冊	月刊生徒指導（学事出版）	60 冊
実践障害児教育（学研教育みらい）	12 冊	実践みんなの特別支援教育（学研教育みらい）	48 冊
月刊教職研修（教育開発研究所）	60 冊	初等教育資料（東洋館出版社）	60 冊
中等教育資料（学事出版）	60 冊	特別支援教育研修（東洋館出版社）	60 冊
教育委員会月報（第一法規）	12 冊	総合教育技術（小学館）	21 冊

ウ その他

新旧の学習指導要領、全国学力・学習状況調査解説資料など文部科学省関係の資料や大学・他市町の研究紀要、県関係、市関係の資料などを分類して配架している。

ロビーでは新刊の教育雑誌を配架し閲覧できるようにしている。また、ロッカーには 340 点あまりの視聴覚資料を保管している。



□令和6年度 新規購入図書（一部抜粋）

全 200 冊

	書 名	編 著 者	出 版 社
生徒指導	10歳からの学校では教えてくれない感情とこころ	伊藤美奈子	池田書店
	「支える生徒指導」の始め方 ―「改訂・生徒指導提要」10の実践例―	新井 肇	教育開発研究所
	教師と支援者のための“令和型不登校“対応クイックマニュアル	神村 栄一	ぎょうせい
	ネットでいじめられたら、どうすればいいの？-5人の専門家と処方箋を考えた-	春名 風花	河出書房新社
特別支援教育	発達障害大全 ―「脳の個性」について知りたいことすべて―	黒坂真由子	日経B P
	発達障害・愛着障害・小児期逆境体験(ACE)のある親子支援ガイド	高山 恵子	合同出版
	境界知能の子どもたち―「IQ70以上85未満」の生きづらさ―	宮口 幸治	S Bクリエイティブ
	こどもへの接し方に悩んだら読む本 ―発達障害？グレーゾーン？―	米澤 好史	フォレスト出版
学校経営	社会を変える学校、学校を変える社会	工藤勇一 他	時事通信出版局
	ウェルビーイングをデザインする小中学生の非認知能力	櫻井 茂男	図書文化社
	若い先生の心をふっと軽くする先輩のことば	ゆきこ先生	明治図書
	先生が足りない	氏岡 真弓	岩波書店
学級経営	学級経営がラクになる！聞き上手なクラスのつくり方	松尾 英明	学陽書房
	Well-being なクラスになる 5分あそび	樋口万太郎他	学陽書房
	どの子も書きまくる！日記指導アイデア	森川 正樹	明治図書
	秒で刺さって子どもが動く！「教室コトバ」のつくり方	森川 正樹	東洋館出版社
授業づくり	事例でわかる！教師のためのけてぶれ実践ガイド！	葛原 祥太	学陽書房
	授業の質を上げる超一流教師のすごいメモ	森川 正樹	明治図書
	熱中授業をつくる！子どもの思考をゆさぶる授業づくりの技術	森川 正樹	学陽書房
幼児教育	子育てはピンチがチャンス！―乳幼児期のこどもの発達と愛着形成―	藤田絵里子他	福村出版
	子どもが伸びるほめ方子どもが折れない叱り方	向井 秋久	G a k k e n
	子どもの育ちを支える「気づく力」-保育者の自己成長を促す90のポイント-	鈴木 八朗	中央法規出版
小・中学校	算数科授業づくりの基礎・基本	坪田 耕三	東洋館出版社
	地域の特色がよくわかる！47都道府県面白条例図鑑	長嶺 超輝	旬報社
	北斎漫画 復刻 ―初摺―	葛飾 北斎	小学館
教育関係	「叱らない」が子どもを苦しめる	薮下遊 他	筑摩書房
	ヤングケアラーってなんだろう？	澁谷 智子	筑摩書房
	お母さんを支える言葉	木村 泰子	清流出版
	教育虐待 ―子どもを壊す「教育熱心」な親たち―	石井 光太	早川書房
その他	君はどう生きるか	鴻上 尚史	講談社
	雨の日の心理学 ―こころのケアがはじまったら―	東畑 開人	K A D O K A W A
	ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力	帯木 蓬生	朝日新聞出版
	栗山ノート2 世界一への軌跡	栗山 英樹	光文社

□令和6年度 利用統計（貸出冊数）

令和7年3月31日現在

	個人		団体		合計
	図書	雑誌	図書	雑誌	
4月	7		2		9
5月	11		257		268
6月	10	3	1		14
7月	28		214		242
8月	11		297		308
9月	17				17
10月	10				10
11月	3				3
12月	10		234	7	251
1月	1		1		2
2月	6			7	13
3月	19	1			20
合計	133	4	1006	14	1157

※個人は教職員を含む一般利用者。

※団体は総合教育センターを含む各小・中・特別支援学校、公立こども園。

（２）成果と課題

令和5年度から導入した加西市立図書館と一体化した図書管理システムにより、インターネットからの本の検索や貸出予約が可能になり、一般利用者の貸出が増加している。また、加西市立図書館の本の総合教育センターでの受け取り・返却が可能になり、総合教育センターを訪れた利用者が図書コーナーを閲覧する機会も増えている。

「総合教育センター移動図書館」は年4回実施しているが、回を重ねるごとに積極的に活用されるようになってきている。また、毎月13種類の教育雑誌を購入し、特集記事の一覧を総合教育センターホームページや教職員向けのクラウドシステム上に掲載して案内している。僅かであるが、教育雑誌の貸出が見受けられる。

本年度も、教職員への希望調査を行い、教職員の指導力向上を図る学級づくりや授業づくりの本、管理職のニーズに応える学校経営の本、いじめや不登校など生徒指導上の課題に対応する本、発達障害や特別支援教育に関する本などを積極的に購入している。新規購入図書については、図書リストを作成して各学校・園に配付したり、教職員向けに図書の紹介をしたりしている。

一般利用者や移動図書館の貸出冊数は増加しているものの、教職員の個人利用や図書コーナーを訪れての本探し・閲覧はまだまだ少ない。

今後、教職員が足を運んで利用する、魅力ある図書コーナーをめざして工夫改善に努めることが重要である。教職員に対する効果的な広報活動や、研修講座受講者・総合教育センター来訪者への本の紹介や配架の工夫など、図書コーナーのさらなる利用促進を図りたい。

5 学校・家庭・地域の連携協力

兵庫県教育委員会では、「地域とともにある学校」を目指して、「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」を両輪とする「地域と学校の連携・協働体制推進事業」を展開している。それを受けて、加西市教育委員会においても総合教育センターに教員OBの地域コーディネーターを2名配置し、学校運営協議会の設置と地域学校協働活動の一層の充実を目指して取組を進めている。

(1) コミュニティ・スクール

「学校運営協議会」のある学校を「コミュニティ・スクール」と呼ぶ。「コミュニティ・スクール」は、学校が地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域が一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」へ転換するための仕組みである。

平成29年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、その47条で「学校運営協議会」を設置することが努力義務化された。この改正を受けて、加西市教育委員会では、令和2年度に学校運営協議会設置に向けた検討委員会を開いて協議を重ね、「加西市学校運営協議会規則」を策定した。令和3・4年度を周知と準備の期間として、令和5年度よりすべての加西市立学校に「学校運営協議会」を設置した。本年度は、昨年度に引き続き、学校運営協議会についての理解を深めるために委員を対象にした研修会と各校の取組についての情報交換を行う連絡会を開催した。

- ・「学校運営協議会委員研修会」
5月31日(金) 加西市民会館
講師 多可町教育委員会
学校教育課長 恋田 祐爾
出席 各学校運営協議会委員 70名参加
- ・「学校運営協議会連絡会」
2月20日(木) 加西市民会館
取組報告 北条小学校、富田小学校
出席 各学校長・運営協議会会長 33名参加



(2) 地域学校協働活動

ア 地域による学校を支援する活動

本年度も、全学校で地域ボランティアやふるさと創造会議など、地域住民や団体による学習支援が行われた。また、小学校の敷地内と通学路ではワッシュョイスクール協力員や地域見守り隊による見守り活動が行われた。地域コーディネーターは、地域による学習支援に係る連絡調整ならびに、学校や活動場所を訪問して活動状況の把握に努めた。加西市教育委員会が推進する加西STEAMの一環として、地元企業、研究機関、公共施設などと協働した新しい取組も増えている。

地域ボランティアや地域・関係団体による学習支援 各校の特色ある取組

学 校	活動内容と支援者・支援団体
北条小	「城山の自然と歴史」 3年総合（支援：小谷城跡保存会） 「県立美術館出前授業」 4年図工（支援：兵庫県立美術館）
北条東小	「丸山公園自然観察」 3年総合（支援：地元自然観察指導員） 「やさしい日本語教室」 4年総合（支援：加西市国際交流協会 他）
富田小	「米づくり」 3年総合（支援：ワッシュョイスクール協力員 窪田町営農組合） 「アスリート派遣等による体育授業等の充実事業」 高学年体育（支援：スポーツ庁）
賀茂小	「ハリマ王にんにくの栽培と調理」 3年総合（支援：北本ファーム 他） 「歴史講座」 6年社会（支援：賀茂地区ふるさと創造会議）

下里小	「おにぎりとうふパーティ」 3年総合（支援：西笠原町営農組合 他） 「スペシャル三ツ星カレー」 6年総合（支援：ちきゅうきぼ 善防公民館農産加工教室 他）
九会小	「図書まつり」 全学年（支援：図書ボランティア、加西市立図書館） 「加西市のおみやげ開発」 6年総合（支援：加西市観光協会 他）
富合小	「ものづくり実演&体験教室」 5年総合（支援：兵庫県職業能力開発協会） 「福祉体験～様々な障がいの疑似体験～」 4年総合（支援：加西市社会福祉協議会）
日吉小	「普光寺川の生き物」 3年総合（支援：県立人と自然の博物館） 「ワクワク料理教室」 3・4年総合（支援：がいな製麺所）
宇仁小	「安全・安心の綿づくり」 3年総合（支援：コットンボール銀行） 「消防団出前授業」 5年総合（支援：加西市消防団第9分団）
西在田小	「防災学習」 全校生（支援：神戸学院大学現代社会学部社会防災学科） 「赤ちゃん先生交流会」 5年体育（支援：ママの働き方応援隊）
泉小	「お魚教室」 5・6年家庭科（支援：兵庫県漁業協同組合連合会） 「だし巻き卵づくり」 6年家庭科（支援：割烹いづみ）
加西特別支援学校	「身だしなみ教室」 高等部（支援：株式会社マンダム） 「わかばフェスティバル」 全校行事（支援：PTA 市内学校特別支援学級 他）
中学校	「トライやる・ウィーク」 中学2年（支援：地域の事業所・商店 公共施設 他） 「トキメキ仕事体験」 加西中1年（支援：兵庫県専修学校各種学校連合会）

※ 各校で平和学習・福祉体験(CH体験)・命の授業・薬物乱用防止教室などが実施されている。

【地域人材との協働】



【各種団体等との協働】



イ 見守り活動

(ア) 地域子ども見守り隊

平成18年2月に結成され、令和6年度の登録者は交通当番の保護者を含めて529名。加西市の全小学校において、登下校時の交差点横断誘導や声掛けによる子ども見守り活動を行っている。保護者の目が届きにくいところにおいても注意深く見守り、児童は安心して登下校することができている。

(イ) ワッシュイスクール推進事業

平成15年より実施。「開かれた学校づくり」「安心・安全な学校づくり」を目指し、地域の方々が学校を神輿（みこし）のごとく支え持つという意味で名づけられている。令和6年度は321名が登録し、交代で学校敷地内の巡回や環境整備など、不審者から児童を守るための抑止力として活動している。

ウ 土曜日の教育活動（土曜チャレンジ学習）

子どもたちにとって、より豊かで有意義な土曜日を実現するために、地域の多様な経験や技能をもつ人材の協力により、土曜日等の学校休業日に、体系的・継続的なプログラムを実施している。本年度も6小学校区で計画され、全37教室が実施された。総参加者数1062名、1教室当たり28.7名の児童が参加した。

令和6年度 土曜チャレンジ学習の各校の取組

小学校区	活 動 内 容	
北条小	実施内容…PTA事業と連携した教科に即した発展的学習 活動内容 ①1年 わくわく！学校探検 ②2年 ミニ運動会 ③3年 ドッジボール大会 ④4年 ドッジボール大会 ⑤5年 カラーリング ⑥6年 ミニ羅漢づくり	
北条東小	実施内容…スポーツ活動（陸上「走り方」教室） 活動内容（指導：加西市陸上競技協会会員） ①走り方教室（短距離走） ②走り方教室（短距離走） ③走り方教室（短距離走） ④走り方教室（短距離走） ⑤走り方教室（短距離走） ⑥走り方教室（短距離走） ⑦走り方教室（長距離走） ⑧走り方教室（長距離走）	
下里小 (善防公民館)	実施内容…子ども将棋教室（講義と対局） 活動内容（指導者：日本将棋連盟指導員、地域有段者） ①子ども将棋教室 ②子ども将棋教室 ③子ども将棋教室 ④子ども将棋教室 ⑤子ども将棋教室 ⑥子ども将棋教室 ⑦子ども将棋教室 ⑧子ども将棋教室	
九会小	実施内容…九会地区ふるさと創造会議と連携した地域学習 活動内容 ①親子そばうち体験 ②特産ぶどう狩り体験 ③九会っ子！ハーブづくりに挑戦 ④鶉野飛行場跡ウォーキング(中止) ⑤気球搭乗体験(九会っ子！あさひフライト) ⑥なわとび体験	
富合小	実施内容…校区子ども会と連携した教科に即した発展的学習 活動内容 ①スポーツ教室①(野球&バレーボール) ②料理教室①(ソーセージ作り) ③スポーツ教室②(野球体験) ④グラウンドゴルフ教室 ⑤正月飾りを作ろう ⑥料理教室②(パンケーキ作り)	
泉 小	実施内容…PTA事業と連携した教科に即した発展的学習 活動内容 ①いもイモ大作戦！Part 1 ②6年生親子ふれあいイベント ③夏休みプログラミング教室 ④いもイモ大作戦！Part 2 ⑤焼き芋大会(中止)	

エ 地域未来塾（かさい未来塾）

「地域と学校の連携・協働体制構築事業」を受けた地域学校協働活動の一環として、自主的・自立的に学ぼうとする生徒に対して、地域人材等の学習サポーターを活用して、地域と学校の連携・協働による学習支援を行っている。本年度も夏季休業中に4中学校で延べ72日実施した。参加申込者数170名、総参加者数1774名、1回当たり24.6名の生徒が参加した。



【北条中】



【善防中】



【加西中】



【泉 中】

(3) 成果と課題

- 令和5年4月に、学校運営協議会を市内の全学校に設置した。委員対象の研修会や連絡会を開催して学校現場との理解を深め、その啓発に努めた。「地域とともにある学校づくり」において、より機能的な組織となるように、総合教育センターとして支援していくことが重要である。
- 地域学校協働活動は大変充実している。加西市は小学校を中心に、以前から学校と地域との結びつきが強く、地域住民は学校に協力的である。そのような地域性から、すべての学校が地域を学習の場としていかしたり、地域人材を活用したりして、米づくりなどの栽培活動や食育、自然観察、史跡見学など様々な体験学習を展開している。学習後の児童生徒や教職員の感想では、有意義な体験学習ができたとその多くが肯定的に評価している。
- 地域学校協働活動の成果として、地域と連携協働した様々な体験を通して、郷土の歴史や文化、自然、地域社会の特色について理解を深めるとともに、自尊感情や生命・自然を大切にする心、ふるさとを愛する心など豊かな心を育てていることがあげられる。
- 学校の統合・再編計画により、今後、学校の統合が順次進められていく。それまでに各学校で実施していた地域学校協働活動を、新しくできた学校でどのように進めていくのかが課題である。
- ワッシュイスクールや地域子ども見守り隊などの学校安全ボランティアは、校区によって人数や方法に違いはあるが、すべての小学校区で活動しており、児童生徒は安心して登下校したり学校生活を送ったりすることができている。今後、学校の統合・再編により児童の多くがスクールバスで通学することが決定している。地域の見守り活動は、それに対応する新しい体制を整える必要がある。また、学校安全ボランティアは高齢化が進んでおり、新たな人材確保が課題である。
- 土曜日の教育活動（土曜チャレンジ学習）については、PTA・子ども会・ふるさと創造会議等と連携を図りながら、地域と密着した様々な教室を行っている。参加した児童は各教室の活動を通して、地域の方々や家族とのふれあいを深めたり、地域のよさを見つけたりすることができた。また、今年度も学校にかかる負担を軽減するため、PTA・子ども会・ふるさと創造会議を受け皿とした委託団体を中心に実施することとし、年間8回程度の実施を5回以上の実施とした。これにより、委託団体や学校が行う各プログラムの計画や準備、募集チラシ・参加者名簿の作成等の事務負担が軽減された。今後も委託団体や学校と連携・協力しながら、土曜日等学校休業日に教育活動を実施し、子ども達にとってより豊かで有意義な活動となるよう事業を継続していきたい。
- 地域未来塾（かさい未来塾）は、涼しく、静かな雰囲気の中で集中して計画的に学習ができ、また学習サポーターからのアドバイスもあるため、参加生徒からは好評である。開催日数や時間の関係で学習サポーターの確保が難しい。

Ⅲ 育成支援

育成支援係は、青少年の健全育成のために、次の6つの事業を推進した。

- ① 青少年の健全育成に関すること
- ② 不登校支援に関すること
- ③ 発達支援に関すること
- ④ 教育相談に関すること
- ⑤ 青少年育成に関すること
- ⑥ 市民の研修に関すること

1 健全育成

(1) 加西市青少年補導委員連絡協議会

各小学校区の補導委員の中から選出された12名の理事が中心になって、委員相互の連絡を密にするとともに積極的な補導活動を推進している。

また、青少年の非行防止と健全育成を推進するため、健全育成関係団体（青少年健全育成連絡協議会、連合PTA、防犯協会）との連携強化を図った。

期 日・場 所	内 容
4/6(土)～7(日) 住吉神社他	北条節句祭り特別補導
4/12(金) 総合教育センター	第1回理事会 ・定期総会について ・定期総会の準備と役割分担について ・委嘱状の交付と代表者の選出について ・知事表彰等について
4/17(水) 総合教育センター	第1回女性協力員の会
5/16(木) 総合教育センター	第2回理事会 ・令和6年度定期総会について ・北播磨補導委員統一活動について ・夏季休業中の巡回について
5/18(土) 加西市民会館小ホール	定期総会
6/12(水) イオン加西北条店	女性協力員による特別補導
7/5(金) 総合教育センター	第3回理事会 ・北播磨補導委員統一活動について ・加西サイサイ祭り特別補導活動について ・加西市青少年健全育成関係団体連絡会について
7/13(土) 北条町駅周辺市内各所	北播磨補導委員統一活動 ・量販店、コンビニ、公園等及び各校区における巡回補導活動
8/4(日) 加西市役所周辺	第47回加西サイサイ祭り特別補導
8/20(火) 総合教育センター	加西市青少年健全育成関係団体連絡会 加西市青少年健全育成関係団体合同役員研修会

9/6 (金) 総合教育センター	第4回理事会 ・北播磨統一活動実施結果について ・加西サイサイ祭り特別補導実施結果及び今後の課題について
10/7 (月)～ 10/18(金) アステシア加西	いじめ防止運動作品展
10/24 (木) 豊岡市	第57回兵庫県青少年補導委員大会・研修会 ・知事表彰等授賞式
11/1 (金) 総合教育センター	第5回理事会 ・ネットトラブルから子どもを守る市民研修会、加西市青少年非行防止・健全育成キャンペーンについて ・「加西市ネット見守り隊」啓発のぼり等の購入・設置について ・知事感謝状、会長感謝状の授与について
12/11 (水) イオン加西北条店	女性協力員による特別補導
12/14 (土) 加西市民会館 市内量販店等	ネットトラブルから子どもを守る市民研修会 青少年非行防止・健全育成キャンペーン兼北播磨統一活動
12/14 (土) 多可町	北播磨青少年健全育成関係機関・団体合同研修会
1/10 (金) 総合教育センター	第6回理事会 ・ネットトラブルから子どもを守る市民研修会実施結果並びに 青少年非行防止・健全育成キャンペーン実施結果について ・令和6年度事業報告について
2/19 (水) 総合教育センター	第2回女性協力員の会
3/14 (金) 総合教育センター	第7回理事会 ・会計監査 ・令和7年度加西市補導委員連絡協議会総会について ・令和7年度事業計画について ・節句祭り特別補導について

ア 補導活動

各区長から推薦のあった補導委員 137 名、関係団体から推薦のあった女性協力員 10 名、高等学校長から推薦のあった 2 名、合計 149 名が補導委員として、青少年の非行防止、健全育成のために補導活動を実施した。新型コロナウイルス感染症の 5 類移行により、従来の複数による補導活動を行う校区も増えたが、少数での補導活動に変更した校区もある。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計
回数	77	65	65	77	76	57	62	63	72	54	57	34	759
人数	161	114	104	143	161	106	102	111	119	87	98	75	1,381

イ 特別補導活動

(ア) 北条節句まつり

4月6日(土)、7日(日)の2日間、住吉神社及びその周辺において補導活動を実施した。

(イ) 第 47 回加西サイサイまつり

8 月 4 日（日）、加西市役所及びその周辺において補導活動を実施した。

令和 6 年度から前夜祭の補導活動を中止した。

(ウ) 北播磨統一活動

北播磨 5 市 1 町で組織する北播磨補導委員連絡協議会の活動として次の活動を行った。

a 第 1 回

7 月 13 日（土）、市内の量販店、書店、コンビニ等各店の協力を得て、補導委員と加西警察署員が非行防止のチラシなどの配布と巡回補導活動を実施した。

b 第 2 回

12 月 14 日（土）、青少年健全育成関係機関・団体、加西警察署と合同で、青少年補導委員等約 100 名が啓発のぼりを掲出し、イオン加西北条店、アステシアかさい、マックスバリュ加西中野店などにおいて買い物に客対してチラシを配布して、キャンペーンを実施した。



ウ 女性協力員の活動

(ア) 構成

女性協力員は、連合 P T A 及び北条高校 P T A、連合婦人会、更正保護女性会から推薦のあった 10 名で構成する。

推薦団体		人 数
連合 P T A	学校名	
	北条中学校	1
	善防中学校	1
	加西中学校	1
	泉 中学校	1
北条高校 P T A		2
連合婦人会		2
更正保護女性会		2

(イ) 活動内容

女性の特性を活かして青少年の非行防止と健全育成を推進する活動で、具体的には、児童生徒の登下校時の立ち番や計画的な広報車による巡回補導、日頃の地域における青少年の様子についての情報提供等を行った。

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計
回数	26	37	33	26	19	23	26	30	31	30	25	20	326

(ウ) 合同補導活動

6 月 12 日（水）、12 月 11 日（水）午後 6 時より、イオン加西北条店において合同補導を実施した。

(2) 加西市青少年健全育成連絡協議会

市内 10 地区（北条小校区と北条東小校区は合同）の健全育成会の会長による組織で、各地区活動の情報交換を行い、連携した青少年健全育成活動の推進を図ることを目的としている。

各地区健全育成会の傘下には、P T A、補導委員、防犯委員が所属しているため、各地区の不審者対応の中心となっている。令和 6 年度、九会地区青少年健全育成会は、12 月 12 日に開催した臨時総会において、同地区の健全育成会を解散した。

ア 活動内容

期 日・場 所	内 容
7/11 (木) 総合教育センター	第1回協議会 ・令和6年度役員の選出 ・令和5年度の活動報告及び令和6年度の活動について ・不審者情報について ・各育成会の活動状況及び情報交換
8/20 (火) 総合教育センター	加西市青少年健全育成関係団体連絡会 加西市青少年健全育成関係団体合同役員研修会
12/14 (土) 加西市民会館 市内量販店等	ネットトラブルから子どもを守る市民研修会 青少年非行防止・健全育成キャンペーン
3/11 (火) 総合教育センター	第2回協議会 ・令和6年度活動の成果と課題について ・不審者情報及び不審者への対応について ・各育成会の活動状況及び情報交換

イ 「不審者注意」啓発のぼり旗の作成

不審者対応として、啓発のぼり旗を作成し、不審者が出現した地点の近くや幹線沿いに設置し、通行する児童生徒をはじめ、一般市民への注意喚起・啓発を行った。

(3) 加西市連合PTA

家庭教育力の向上を図ることを目的として連合体を構成し、下記の活動を実施した。青少年健全育成関係団体と連携して補導活動や健全育成、ネットトラブル防止の啓発活動を行うとともに、「子ども見守り隊」活動や「子ども110番の家」の設置等で、児童生徒が安全で安心な生活を送れるように取り組んだ。

期 日・場 所	内 容	参加数
4/18 (木) 加西市健康福祉会館	第1回会長会（新旧）並びに総会 ・総会決議 ・令和6年度の活動の確認 ・役員引継ぎ	34
6/27 (木) 加西市健康福祉会館	第2回会長会 ・PTCA活動支援事業 実践発表について ・奉仕作業について	18
8/27 (火) 総合教育センター	第3回会長会 ・研修会等補助について ・PTCA実践発表会の参加について	18
11/12 (火) 総合教育センター	第4回会長会 ・PTCA実践発表会の運営について ・新役員選出について	18
11/16 (土) 加西市健康福祉会館	兵庫県PTA中央大会・PTCA全県フォーラム兼 加西市連合PTA実践発表会 実践発表 北条東小PTA・北条中PTA・日吉小PTA 講演 演題 「自分らしく過ごすために ～車いす歴10年で気づいたこと～」 講師 葦原 海	201

1/19 (日) うるおい交流館エクラ	東播磨・北播磨地区市郡連合PTA指導者研究集会及び小野市連合PTA P T C A活動支援事業実践発表会 講演 演題 「人との絆（たすき）に込めた思い」 講師 小林 祐梨子	250
1/21 (火) 総合教育センター	第5回会長会 ・新役員について ・次年度の行事について	18
3/18 (火) 総合教育センター	第6回会長会 ・次年度の活動テーマについて ・1年間の反省について	18

ア P T C A活動支援事業

P T Aを中核に、地域の住民（C：コミュニティ）の参画と協働によるP T C A活動の充実にむけたP T Aの主体的な取組を支援し、家庭の教育力の向上を図るとともに、地域が支える学校づくりの充実や子どもたちの安全・安心を守る活動を支援することを目的としている。具体的な取組は、次のとおりである。

（ア）テーマ

変革の時、すべては子ども達のために

（イ）実践発表・講演会

今年度は兵庫県P T A協議会との合同開催とした。市内の3 P T A（北条東小・北条中・日吉小）が実践発表を行った。

（ウ）家庭教育支援活動

各学校でP T Aが実施する講演会などの経費の一部補助を行った。

【実施校】

影絵劇（北条東小）、サーカスショー（賀茂小）、ゆかいな音楽会（日吉小）

講演会「たすけられじょうずになろう」（富合小）、ギターコンサート（宇仁小）

リサイクル楽器演奏会（西在田小）、講演会「仕事について」（加西中）

講演会「『甘い』はなし」（泉中）

（エ）学校教育支援活動

P T Aや学校支援ボランティアによる教育環境の整備や読み聞かせ、あいさつ運動などを行った。

（オ）子どもの安全・安心を守る取組

P T Aや地域の協力による「地域子ども見守り隊」活動の実施や「子ども110番の家」の設置の依頼を行った。また、活動に必要なのぼり旗・ベスト等を計画的に購入し、活動推進の一助としている。

イ 正副会長・役員会

年2回、各学校P T A役員を中心に学習会を開催予定であったが、第1回会長会で中止を決定した。

（4）青少年健全育成関係団体連絡会

青少年の健全育成に関わる5団体(加西市青少年補導委員連絡協議会、加西市青少年健全育成連絡協議会、加西市連合P T A、加西市防犯協会、総合教育センター)の連携強化を図り、巡回補導や育成事業の効果的な活動のための協議を行うとともに、インターネットトラブル防止のための啓発と研修を行う。

ア 合同役員研修会

8月20日（火）、総合教育センターにて、青少年健全育成関係団体役員が講師を招き、研修会を開催した。

イ ネットトラブルから子どもを守る市民研修会

12月14日（土）、加西市民会館にて、青少年健全育成関係団体の構成員及び一般市民を対象に研修会を開催した。

ウ 青少年非行防止・健全育成キャンペーン

12月14日（土）、市内11箇所の量販店、書店等においてキャンペーンを実施し、啓発のぼりを掲出して買い物客に対してチラシなどを配布した。

（５）生徒指導に関する取組

ア 生徒指導に関する現状

資料①～③は、問題行動件数やいじめ認知件数、不登校児童生徒数を示している。これらの変化から、次の取組が必要と考えられる。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 不登校児童生徒の支援・ インターネットの事案も含むいじめの未然防止・早期対応・再発防止に向けた取組・ 発達に特性のある子どもの支援（対人関係づくり） |
|--|

加西市 児童生徒の問題行動件数及び不登校生数

【小学校】

(件数)

種 別			H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
刑法犯行為	暴力 行為	学校内	0	1	3	0	9	24	48	47	34	51
		学校外	0	0	1	0	0	0	4	3	1	1
	器物損壊		1	1	1	0	2	4	8	3	4	5
	恐 喝		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	窃盗(万引き等)		8	7	5	4	2	4	3	2	3	3
	その他(放火等)		0	0	1	0	0	2	1	1	1	0
ぐ犯・不良行為	深夜はいかい		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家 出		2	2	0	0	4	4	0	2	0	0
	飲 酒		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	喫 煙		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他(不良交友等)		7	17	15	29	49	40	29	51	39	40
	けんか		0	2	2	3	14	16	8	9	6	6
無免許運転			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計			18	30	28	36	80	94	102	118	88	106

いじめ(件)	3	9	4	7	30	59	51	42	58	74
不登校(人)	4	5	6	10	8	7	15	27	49	59

【中学校】

(件数)

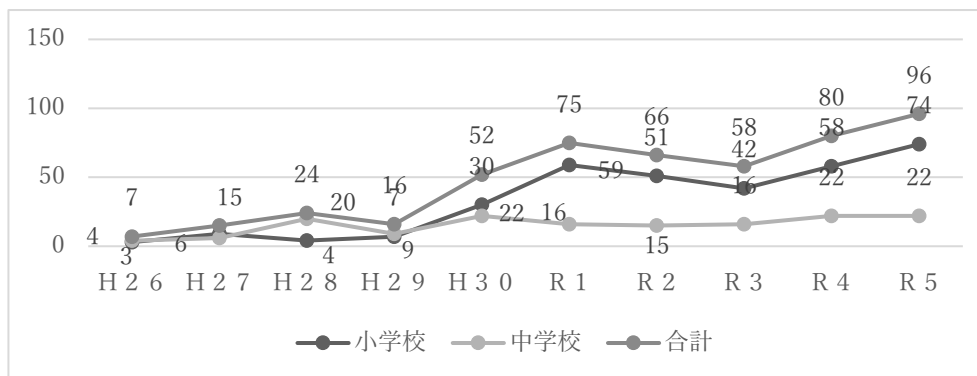
種 別			H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
刑法犯行為	暴力 行為	学校内	7	5	6	10	16	9	4	3	22	31
		学校外	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	器物損壊		2	0	4	2	1	2	3	1	5	9
	恐 喝		0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
	窃盗(万引き等)		4	2	10	7	4	6	3	1	1	1
	その他(放火等)		0	1	0	0	2	0	0	0	0	0
	ぐ犯・不良行為	深夜はいかい		2	0	0	1	0	0	1	0	2
家 出		0	1	1	1	1	6	2	1	5	0	
飲 酒		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
喫 煙		4	3	0	0	0	1	0	0	0	0	
その他(不良交友等)		99	67	68	57	84	66	94	116	92	92	
けんか		12	6	16	14	20	8	11	12	14	3	
無免許運転			0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
合 計			131	86	106	92	129	99	118	136	142	138

いじめ(件)	4	6	20	9	22	16	15	16	22	31
不登校(人)	42	44	53	60	46	44	48	59	81	85

いじめの認知件数の変化

【加西市の認知件数】

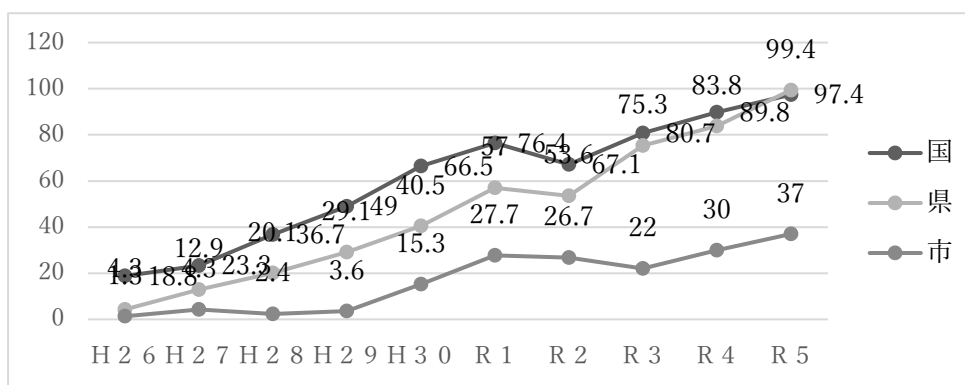
	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
小学校	3	9	4	7	30	59	51	42	58	74
中学校	4	6	20	9	22	16	15	16	22	31
合計	7	15	24	16	52	75	66	58	80	105



【1000人当たりの認知件数の変化】

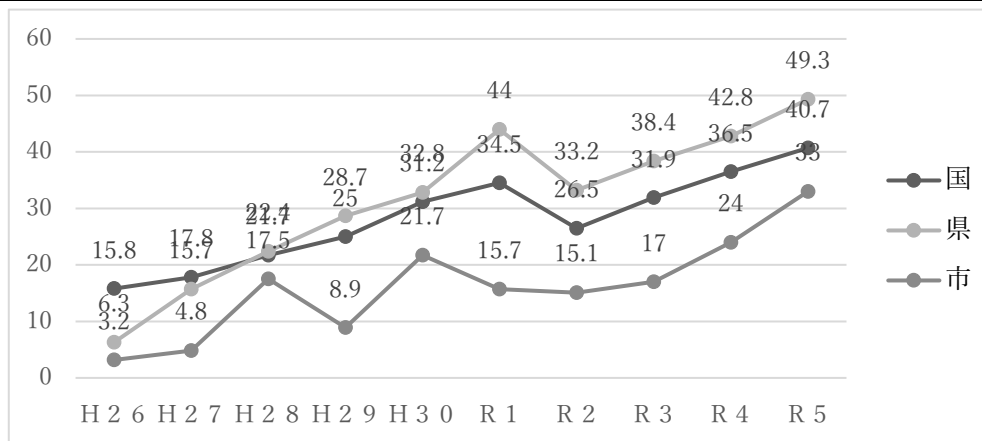
小学校

	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
全国	18.8	23.3	36.7	49	66.5	76.4	67.1	80.7	89.8	97.4
県	4.3	12.9	20.1	29.1	40.5	57	53.6	75.3	83.8	99.4
加西市	1.3	4.3	2.4	3.6	15.3	27.7	26.7	22	30	37



中学校

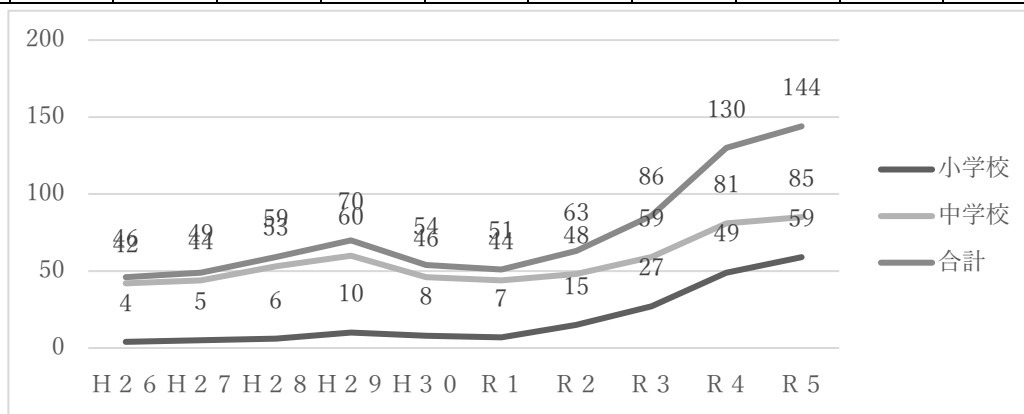
	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
全国	15.8	17.8	21.7	25	31.2	34.5	26.5	31.9	36.5	40.7
県	6.3	15.7	22.4	28.7	32.8	44	33.2	38.4	42.8	49.3
加西市	3.2	4.8	18	8.9	21.7	15.7	15.1	17	24	33



不登校児童生徒の変化

【加西市の不登校児童生徒数】

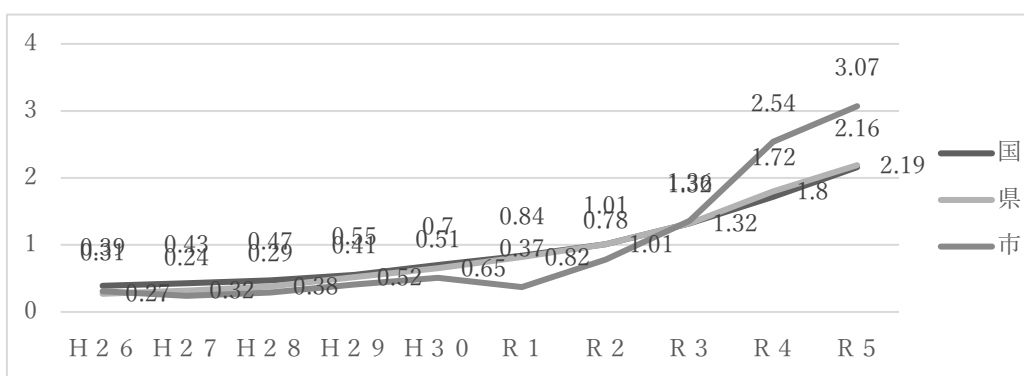
	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
小学校	4	5	6	10	8	7	15	27	49	59
中学校	42	44	53	60	46	44	48	59	81	85
合計	46	49	59	70	54	51	63	86	130	144



【不登校児童生徒の割合】

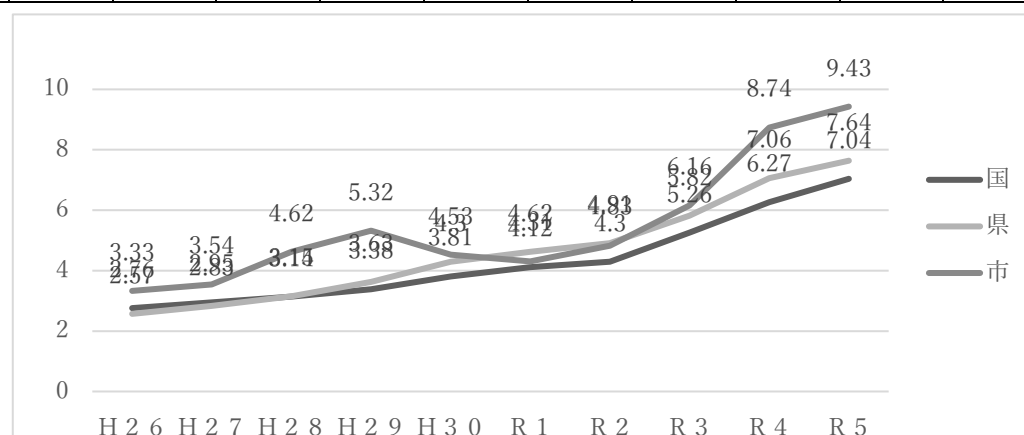
小学校

	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
全国	0.39	0.43	0.47	0.55	0.70	0.84	1.01	1.32	1.72	2.16
県	0.27	0.32	0.38	0.52	0.65	0.82	1.01	1.32	1.80	2.19
加西市	0.31	0.24	0.29	0.41	0.51	0.37	0.78	1.36	2.54	3.07



中学校

	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
全国	2.76	2.95	3.14	3.38	3.81	4.12	4.30	5.26	6.27	7.04
県	2.57	2.83	3.15	3.63	4.30	4.62	4.91	5.82	7.06	7.64
加西市	3.33	3.54	4.62	5.32	4.53	4.31	4.83	6.16	8.74	9.43



そのため、次にあげる取組を実施し、学校・関係機関と連携し、相談支援体制の強化を図った。また保護者・地域の理解と協力を得られるよう啓発活動も行った。

イ いじめ防止等に関する取組

(ア) 加西市いじめ防止基本方針・加西市いじめ対応マニュアル

加西市いじめ対応マニュアルを、各種会議で周知し、未然防止・組織的対応・再発防止の取組について、学校・警察・市長部局と共有した。

(イ) 加西市子どもいじめ問題対策審議会

加西市子どものいじめ防止等に関する条例によって、加西市いじめ防止基本方針に基づくいじめの防止等のための対策を実効的に行うようにするため、教育委員会の附属機関として、加西市子どもいじめ問題対策審議会を設置した。学識経験者をはじめ法律、医学、心理等の専門家に委員を委嘱した。

期 日・場 所	内 容
8/30 (金) 総合教育センター	第1回加西市子どもいじめ問題対策審議会 ・審議会委員確認 ・加西市におけるいじめの現状とこれまでの取組について ・いじめ事案の対応検討
3/7 (金) 総合教育センター	第2回加西市子どもいじめ問題対策審議会 ・加西市におけるいじめの現状について ・いじめ対応の課題について

(ウ) いじめ対応加西市ネットワーク会議（加西市いじめ問題対策連絡協議会）

加西市いじめ防止基本方針に基づき、各学校と教育委員会、市長部局（人権推進課と地域福祉課）、加西警察署、加西市青少年補導委員連絡協議会等のいじめの防止等に関係する機関・団体が連携を図り、いじめ防止等の対策を効果的に推進するための会議として開催した。学校・警察・総合教育センター連絡会と兼ねて行った。

期 日・場 所	内 容
7/9 (火) 総合教育センター	第1回いじめ対応加西市ネットワーク会議 ・いじめに関するアンケート調査の結果について ・「いじめ対応マニュアル」の確認と早期対応について ・いじめ防止運動作品募集について
12/9 (月) 総合教育センター	第2回いじめ対応加西市ネットワーク会議 ・いじめに関するアンケート調査の結果について ・発達に特性のある児童生徒の配慮と指導について ・関係機関でのいじめ対応について

(エ) いじめ防止運動

a いじめ防止運動作品展の開催

児童生徒が、いじめに対して正しい認識をもち、いじめを防止しようとする意識の高揚を目的に開催した。夏休みに小・中学生に「標語」、「ポスター」を募集し、優秀作品を選考し表彰した。10月7日（月）～10月18日（金）までアスティアかさい地域交流センターウォールギャラリーにて作品展を開催し、さらに小中特別支援学校において「持ち回り展」を行った。

いじめ防止運動作品展応募数					
ポスターの部	小学5年	136点	ポスターの部	中学1年	90点
標語の部	小学6年	310点	標語の部	中学2年	289点
			ポスターの部	中学3年	16点
応募総数 841点					

ｂ 啓発チラシの作成・配布

いじめ防止運動作品展で募集した標語やポスターの優秀作品を掲載したいじめ防止啓発チラシを作成し、12月14日（土）の青少年非行防止・健全育成キャンペーンにおいて、市内11か所の量販店や書店等で買物客に配布し啓発活動を行った。各町においても、啓発チラシを回覧板にて回覧を行った。

ｃ 青少年健全育成カレンダー・クリアファイルの作成・配布

啓発チラシと同じくいじめ防止運動作品展の優秀作品を掲載した青少年健全育成カレンダー・クリアファイルを作成し、各関係機関、施設、全児童生徒に配布した。

ウ インターネット等の使用に関する取組

（ア）アンケート調査の実施

スマートフォンやゲーム機などインターネットに接続可能な機器の普及に伴い、児童生徒がネットトラブルや犯罪に巻き込まれる危険性が増し、さらに長時間利用によるインターネット依存・ゲーム依存の問題が発生している。そこで、市内小中学生のインターネット等の使用状況を把握し、学校、保護者及び児童生徒自らが対策を考えるための資料とするため、アンケート調査を実施した。

そして、調査結果を分析し、各小中特別支援学校に公表するとともに、現状に対しての各学校の取組を考え、対策を行うよう依頼した。

（イ）啓発リーフレットの作成（別紙）

調査結果を分析し、各家庭における今後の対策について、リーフレットを作成し、小・中・特別支援学校全児童生徒の保護者及び教職員に配布した。各家庭には、インターネットやスマートフォン、ゲーム機について、家庭での親子の話し合いや使い方のルールづくりを啓発した。

（ウ）特別監視員によるサイバーパトロールと情報提供

月に1回センターにて特別監視員とともにサイバーパトロールを行うとともに最新の情報提供を受け、必要な対策を各小・中・特別支援学校に促した。早急に対応が必要な事案については、その都度連絡を取り合い対応した。

エ 学校サポートチーム

児童生徒の、いじめや不登校・問題行動等の未然防止及び早期対応・早期解決、相談体制の充実等を図るため、様々な専門性を有する相談員等が連携して学校への多面的な支援を行う学校サポートチームを設立している。

学校サポートチームの構成員は次のとおり

生徒指導担当指導主事、相談員（警察関係者OB）

スクールソーシャルワーカー（SSW 社会福祉担当）

発達支援アドバイザー（臨床発達心理士）、学校経営アドバイザー（校長OB）

教育相談員（臨床心理士）、弁護士（必要に応じて）

SSWは学校、加西市こどもサポートセンター、市地域福祉課等との連携の窓口となり、家庭訪問や教育相談を行い、学校を支援した。発達支援アドバイザーは発達検査を行い、要請に応じて、学校にてアセスメントを行い、指導・助言をした。保護者・児童生徒の悩み

相談については、臨床心理士が対応し、学校との連携を図った。教職員からの悩み相談を学校経営アドバイザーが行い、指導・助言を行った。

【対応回数】

令和7年3月末

発達支援アドバイザー	総合教育センターでの面接相談	203
	学校訪問（アセスメント・相談等）	54
	電話相談	5
	各種検査	101
	各機関との連携（教育支援委員会含）	43
スクールソーシャルワーカー	面接相談（関係機関含む）	2680
	家庭訪問	505
	電話相談	977
	ケース会議	40

オ 学校・警察・総合教育センター連絡会

各小・中・特別支援学校及び高等学校生徒指導担当者による情報交換を行い、問題行動の未然防止と早期発見に努め、組織的な生徒指導体制を構築できるよう、年間5回開催した。加西警察署との情報共有により、関係機関の連携をより一層深めた。

期 日・場 所	内 容
6/10（月） 総合教育センター	・ 青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・ 問題行動・いじめ・長期欠席等の報告について ・ 生徒指導に関する情報交換 ・各中学校区小中連絡会
7/9（火） 総合教育センター	・ 青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・ いじめ事案の対応について ・生徒指導に関する情報交換 ・ 各中学校区小中連絡会
10/7（月） 総合教育センター	・ 加西警察による「聴き取りについて」研修 ・ インターネット等の使用についてのアンケート調査について ・ 生徒指導に関する情報交換 ・各中学校区小中連絡会
12/9（月） 総合教育センター	・ 青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・ いじめ事案の対応について ・いじめの認知と対応の再確認 ・ 各中学校区小中連絡会
3/4（火） 総合教育センター	・ 青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・ 令和5年度の問題行動・いじめ・不登校について ・ 生徒指導に関する情報交換 ・各中学校区小中連絡会

カ すまいるリンクネットワーク連絡会（市不登校対策連絡協議会）

総合教育センター、地域福祉課、健康課、学校教育課、こども未来課、基幹相談支援センター「やすらぎ」で連絡会を開催した。毎月1回、情報交換を行い、不登校やひきこもり支援に対する方向性を共通理解し、これからの課題についても協議した。また、この連絡会で共通理解した内容を日々の連携に生かし、S S Wを中心に密に連絡を取り合い、協力体制の強化を図った。

2 不登校支援

本年度も全国的に不登校児童生徒は増加しており、加西市においても同様の状況にある。加西市では、既存の教育支援センター「ふれあいホーム」に加え、令和6年度には市内すべての中学校に「校内フリースクール」を開設し、不登校支援に取り組んでいる。各中学校に校内フリースクールが設置されたので、通室方法等の問題により利用することが難しかった生徒も利用できるようになったことや不登校生と先生が顔を合わせ関われる場として活用されている。少しずつ不登校生や学校の思いを受けて、登校できないハードルを可能な限り下げ、自分のペースで登校できる場所として、学校・家庭・地域に認知されつつある。

中学生の不登校生は、「ふれあいホーム」と校内サポートルームは併用可能であり、通室生は状況によって、平日毎日通室できるようになった。小学校高学年の不登校生は、「ふれあいホーム」に入室が可能である。小学校の不登校生も通室できるようになったが、通室するには難しさがある。そこで、小学校の不登校児童を支援するために、「小学校不登校児童支援員」を4校に派遣することができた。別室登校の児童や教室に入りづらい児童を支援するために派遣し、小学校の校内にサポートルームを設置し、不登校児童の居場所づくりに取り組んでいる。

総合教育センターでは、不登校支援の基本理念「ありのままの自分を好きになること」の下、支援にあたる教育相談員の中で、「選択決定するのは本人」、「評価やジャッジ、判断決定しない」ことを共通理解し、過ごし方も通室した児童生徒自身が決めるなど、児童生徒の主体性を尊重した支援を目指している。

【本年度の利用者の内訳】

(R7.1 現在)

			小学生	中学生	合計
ふれあいホーム			3	11(6)	14(6)
校内フリースクール	北条中	あおば		12(2)	12(2)
	加西中	ひなた		6(2)	6(2)
	泉中	なのは		2(1)	2(1)
	善防中	のどか		2(1)	2(1)
合 計			3	28(6)	31(6)

()の内数は、ふれあいホームと校内フリースクールを併用している生徒数

(1) 教育支援センター「ふれあいホーム」

市内小中学校に在籍する小学4年生以上の児童生徒を対象に受け入れを行っている。様々な体験を通して自ら活動できるエネルギーを養い、自分自身や対人関係のあり方に自信を持ち、社会的自立を目指すことを主なねらいとしている。ふれあいホームが子どもたちの居場所となり、人とのつながりを感じられる場となれるように教育相談員が児童生徒の心に寄り添い支援を行った。また、個別スペースを作り、落ち着いて自主学习したり、一人で過ごしたりできる環境を提供している。



【ふれあいホーム室内】

活動内容

自主学习や読書の他、創作活動、菜園活動、散歩、調理実習、夏祭りなど様々な体験活動を大切に、ハイキングや平和学習、職業体験など総合教育センター外での活動も実施した。活動内容は自分たちで話し合い、考え工夫しながら行った。これらの体験活動を自主的・主体的に取り組み、成功体験を積み重ねることで、通室生が自信をもって活動できるように配慮し取り組んだ。また、総合教育センターの臨床心理士をオブザーバーに迎え、不登校あるいは不登校傾向にある児童生徒の保護者同士が交流する場として親の会「ふれあいカフェ」を開催した。

＜主な行事内容＞

※は校内フリースクールと共同で実施

期 日	内 容	場 所
4/26（金）	ハイキング※	兵庫県立フラワーセンター
6/11（火）	AED 講習※	総合教育センター
8/ 8（木）	夏祭り※	総合教育センター
8/22（木）	親の会「ふれあいカフェ」	総合教育センター
11/ 5（火）	平和学習※	sora かさい
11/11～11/15	職業体験「ミニトライ・やる」※	西村書店
12/20（金）	クリスマス会	総合教育センター
1/16（木）	防災学習※	兵庫県立広域防災センター
2/21（金）	卒業生を送る会	総合教育センター



【平和学習の様子】



【夏祭りの様子】



【調理実習の様子】



【菜園活動の様子】

（２）校内フリースクール

昨年度２校の開設に加え、令和６年７月、泉中学校と善防中学校に校内フリースクールを開設し、市内全中学校での受け入れが可能となった。校内フリースクールは各校の別室登校とは違い、校内フリースクール相談員によって運営され、校内に設けられているが教室とは違う環境を整えている。

室内には、周囲の目を気にせず自主学習等に取り組める個別スペースを確保し、通室生同士が交流できるスペースとして円卓やソファも設置している。中学校内にあるが、敢えて学校を想起させない内装とすることで、通室生がより落ち着いて過ごせるよう配慮した。

校内にあるので給食の提供が可能である。通室生以外でも事前連絡のみで喫食可能としている。



【校内フリースクール室内】



【北条中 あおば】



【加西中 ひなた】



【泉中 なのは】



【善防中 のどか】

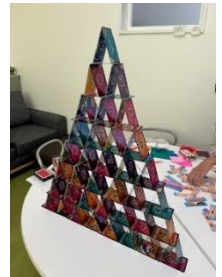
活動内容

通室生自身が一日の過ごし方を決め活動している。個別スペースではオンラインで授業に参加したり、自主学習や読書をしたりしている。フリースペースに集まって共通の話題やゲームをして楽しむ姿が見られる。

給食は全員が協力して準備・片付けを行い、交流しながら食事をする通室生もいる。他にも、室内装飾の創作活動やふれあいホームとの合同行事に参加する通室生も増えてきている。



【給食の様子】



【通室生制作】

（３）不登校支援の取組

ア 関係校との連携

（ア）出席確認と通室生の様子連絡

関係各校に通室生の様子をメールで報告し、月末には出席状況と通室時の様子を文書で報告する等、学校と情報の共有を図るとともに通室生への対応や支援に活かした。

（イ）不登校支援に係る連絡会の実施

年２回、関係校と振り返りや今後に向けての学校の方針や思いを聞き、支援のあり方を話し合った。学校を主軸とする通室生への対応を協議するため、担任、指導主事、発達支援アドバイザー、ＳＳＷ、教育相談員とで情報交換をし、現状や今後の取り組みについて話し合った。また、校内フリースクールでは、学校内にある利点を生かし、通室生について情報共有する必要があることについて、担任等と教育相談員が直接会って話をする事ができた。

イ 家庭との連携

（ア）事前説明と情報共有

入室希望者には事前に担任と相談の上、保護者同伴での見学を必須としている。見学の際にねらいや方針、活動内容等の説明を行っている。入室後は送迎の際に保護者と話をするなど、通室生の様子や家庭での様子を共有し、日々の支援に活かすとともに、信頼関係の構築に努めた。

（イ）個別教育相談の実施

年２回、希望する保護者には個別相談の機会を設けている。通室時の様子を伝え、本人・保護者が望む支援を聞き取るとともに、関係校との連絡会をもとに、社会的自立に向けた支援について思いや考えを共有した。

ウ その他

校内フリースクールが新たに開室するにあたり、学校関係者や保護者向けの見学会を実施した。また、不登校児童生徒への積極的な周知を学校へ依頼したりすることで、不登校児童生徒や保護者に対する支援場所の周知につながった。案内や見学の際にはふれあいホーム・校内フリースクール双方の説明を行うことにより、利用する通室生につなげることができた。

通室生の特性や状況に応じて、臨床心理士、発達支援アドバイザー、ＳＳＷと情報を共有し、日々の支援に取り組んだ。専門的な意見や支援方法の助言をもらい、一人一人に合った



【平和学習の様子】

支援を目指している。また、ふれあいホーム・校内フリースクールで毎日の出席状況や通室時の様子を相互共有し、併用している通室生の状況を把握することで、切れ目のない支援へとつなげることができた。行事についても平和学習や防災学習等を共同で実施し、通室生同士の交流の機会をつくった。



【防災学習の様子】

（４）成果と課題

今年度は校内フリースクールをすべての中学校に開室した。これにより、不登校生の居場所として「ふれあいホーム」と校内フリースクールそれぞれの特色を活かし、不登校生徒一人一人に応じた支援が可能となった。中学校内にある校内フリースクールは、給食の提供や通室生が望めば担任と話したり、オンラインを含む授業に参加したりすることができ、実際に教室にあがり授業を受ける生徒もいた。

「ふれあいホーム」では、調理実習、夏祭り、職業体験、平和学習、防災学習等の体験活動を実施し、人とのつながりを感じながら社会の一員であることを自覚できるきっかけづくりを行った。活動後の通室生の感想から、体験をとおして、人とつながる面白さや良さを感じることができ、社会的自立につながる力を身に付ける機会となったことがうかがえる。

また、今年度より、「ふれあいホーム」では小学校高学年も通室可能となり、様々な活動を通し、異学年の通室生同士が自主的に関わり、お互いに交流しようとする姿が多くみられるようになった。さらに、ハートフレンド（不登校児童生徒支援に関する学生）も採用し、支援員とともに不登校支援の充実を図ることができた。このような様々な人との交流を通して相手への思いやりや気遣いが見受けられ、通室生の良い面や心の成長を感じることができた。

一方、小学生の不登校児童が、「ふれあいホーム」へ通室したくても、遠距離で保護者の送迎が難しいなど問題があり通室できないケースがあり課題となっている。また、近年、小学校での不登校の増加に対応するために「小学校不登校児童支援員」４名を採用し、別室登校や教室に入りづらい児童のいる学校に配置し、支援を行っている。

様々な課題がある不登校児童生徒に、個に応じた支援ができるように相談員の研修を年２回行うことができた。

3 発達支援

(1) 発達相談

【発達相談】

令和7年3月末（件）

		面談相談	電話相談	計
合 計		659	7	666
対 象 者 別	こども園	39	0	39
	小学校	426	3	429
	中学校	193	4	197
	高等学校	0	0	0
	その他	1	0	1
相 談 者 別	保護者	227	5	232
	教師	387	0	387
	医療・福祉	10	2	12
	本人	28	0	28
	その他	7	0	7
主 訴	検査	121	3	124
	対人関係	40	0	40
	しつけ・子育て	6	4	10
	親子関係	2	0	2
	指導の手立て	416	0	416
	進路・学習	64	0	69
	その他	10	0	10

発達相談件数は、主訴別に見ていくと、「指導の手立て」が多く、次いで「検査」「進路・学習」「対人関係」となっており、相談件数が増えている。これは、日常生活や学習面でのつまずきを発達障害の特性と関連づけての相談事例が増えているものと考えられる。

相談者別に見ると、教師からの具体的な指導や手立てについての相談が多かった。これについては、学校生活の困り感について、子どもの発達特性だけでなく、認知発達や行動特性、学習意欲などの性格特性など総合的に分析して、学校と一緒に対応方法を検討することが求められた。保護者からは、子どもの対人関係に関する相談があり、子どもの発達特性や行動特性を把握し、保護者ニーズを確認しながら、当センターの発達支援プログラムの利用につなげることもできた。

(2) 発達検査

【実施状況】

令和7年3月末（件）

対象者	こども園	小学生	中学生	合 計
検 査	0	97	24	121

子どもの認知発達や行動特性、学習意欲などの性格特性を客観的に把握し、発達状態を伝えることを目的に発達検査を実施した。検査結果を保護者や学校関係者に報告し、教育支援委員会審査の資料や発達支援ファイルの作成、通級指導教室や個別指導での対応など、児童生徒が適した指導のもと安心して学べる学習環境につながるよう共通理解を図った。本年度は、昨年度より実施回数は増え、その背景には、発達障害の特性や特別支援教育への理解の深まりによるものと考えられる。実際、本年度は、家庭からの検査依頼が多くみられた。保護者からの子どもの個々の発達特性に応じた教育を受けさせたいというニーズはより高まっている、と推察される。

(3) 発達支援プログラム

学校生活及び日常生活において、不適応、またはそれに近い状態の児童に対して、よりよく適応できるように、行動特性や学習面など発達状態を把握し、発達を促す学習の場としてトレーニングを実施した。また、保護者や教員と共通理解を深めるために、保護者面談や教職員指導者連絡会を、発達段階に応じた適切なかかわりを習得するために保護者研修会やペアレントトレーニングを開催した。

ア トレーニング（のべ71回 1グループ 18回／年）

トレーニングは、以下のような流れで実施した。

- ・個々の実態を把握する。
- ・実態から指導すべき課題を見つけ、指導目標を立てる。
- ・具体的な指導内容を設定する。
- ・トレーニングを実施する。（活動終了後、保護者に活動内容をプリントにて配布）
- ・年度末に評価を行い、次年度へつなぐ。

また、発達支援プログラムプランを作成し、保護者・学校と共有している。

（ア）ソーシャルスキルトレーニング

集団活動やコミュニケーションに課題がある児童に対して、社会性・行動面及び対人関係におけるスキルや対応・知識を身につけることを目指す。低学年・中学年・高学年の3グループで実施し、発達段階に応じた内容に配慮した。

【指導手順】

インストラクション → モデリング → リハーサル → フィードバック

【指導内容】

- ・注意、集中力を高める
- ・聞き取る力を高める
- ・場面に応じた対応の仕方
- ・折り合いの言葉と感情コントロール
- ・協力ゲーム
- ・友だちづくりのソーシャルスキル（情報交換・双方向会話・会話に入る・会話から抜ける・スポーツマンシップ）



【聞き取り学習の様子】



【友だちとの情報交換練習の様子】

（イ）ミュージックセラピー

学習面や行動面に困難を示す児童に対して、音やリズムを通して協調性を養い集中力と注意力を高める。

【音楽療法の定義】

- ・音楽の様々な力を利用して、対象者が抱えている困りごとの改善を促し、よりよい生活を送ることができるように心身の発達を援助する療法。
- ・対象が支援を必要とする児童の場合、音楽そのものに癒しの効果を求めるのではなく、学習活動を促すためのツールのひとつとして音楽を活用する。
- ・聴覚と視覚の統合、リズム模倣、音楽を媒体とした文字や数概念の学習、集中力の訓練など、目的をはっきりとさせて音楽を使用する。

【活動内容】

- ・リトミック
- ・Go & Stop（即時反応・音楽を聴いて、体を動かしたり、止めたりする。）
- ・表現(好みの曲を紹介する)
- ・音楽鑑賞
- ・楽器合奏
- ・感覚統合
等



【曲に合わせてボール床打ち】



【曲に合わせてパラパルーン】

(ウ) アカデミックスキルトレーニング（個別）

読み書きの苦手な児童に対して、アセスメントを行い、つまずきの要因を把握して、学習の基礎となる読み書きの力を高める。

【全体の流れ】

a アセスメント

- ・集中力や図形能力をみる「Rey-Osterrieth 複雑図形」
- ・言語能力をみる「LCSA」（言語・コミュニケーション発達スケール）
- ・読み取り能力、書き取り能力をみる「STRAW-R」（読み書きスクリーニング検査）

b つまずきの要因・能力の現状把握

- ・検査結果から、弱点や問題点を見出し現状を把握する。

c 目標・支援内容の設定

- ・現状に合わせて目標を設定し、支援内容を決定する。

【支援内容】

- ・語彙を増やす（対義語、クロスワード、しりとり等）
- ・漢字の読み書き、漢字や熟語の意味理解
- ・文章読解（文の音読・聞き取り、短い文章での質疑応答）

イ 教職員指導者連絡会

学校と連携した支援の構築を目指して、プログラム参加児童在籍校ごとに連絡会を実施した。特別支援教育コーディネーターや担任と発達支援プログラムのねらいと内容を共有し、参加児童について情報交換を行った。

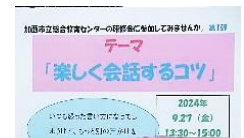
ウ 保護者学習会

(ア) 保護者研修会

保護者が子どもをより理解し、望ましい関わり方を習得するために、研修会を開催した。小学校の保護者へもチラシを配布し、案内した。

テーマ 「楽しく会話するコツ」

講師 ひょうご発達障害者支援センタークローバー加西ブランチャ
相談支援員 川野みか



【配布チラシ】



(イ) ペアレントトレーニング

保護者が子どもをより理解し、望ましい関わり方ができるようにワークショップを中心にトレーニングを実施した。小学校の保護者にもチラシを配布し、案内した。

1回目

テーマ 「ポジティブな親子関係づくり~ほめ上手になろう~」

講師 医療福祉センターきずな

臨床心理士 岡井麻理子

2回目

テーマ 「ポジティブな親子関係づくり~効果的な伝え方~」

講師 医療福祉センターきずな

臨床心理士 岡井麻理子



(ウ) 保護者交流会

保護者が総合教育センターの発達支援アドバイザーや相談員に気軽に相談したり、保護者同士が声をかけあったりできるように、年に8回、子どもたちのトレーニング

と並行して場を設定した。

(エ) 先輩保護者との交流会

保護者が相談の場を広げることができるように、発達支援プログラムを終了された先輩保護者との交流会を行った。

エ 保護者面談

保護者と教育相談員が子どもの1年間の様子や成長について共通理解を図り、今後の成長課題を考えるために、保護者面談を実施した。

(4) 関係機関との連携協働活動

継続的に、保健、福祉、医療、教育関係機関との協働・連携会議を通して、専門的な支援情報を共有し、多様な教育的ニーズに応じた発達支援の充実を目指し、連携を図った。

ア 教育支援委員会（市）

特別な支援が求められる幼児、児童生徒への就学指導において、個々の状態に応じた支援環境が整えられるように、心身の状態、発達検査の結果や集団参加の状況など生活面や行動面の特性について、専門的な意見や情報提供を行った。

イ 保健・医療・福祉・教育機関連携ケース会議

保健・医療・福祉・教育・就労など、多様な関係機関の連携体制を整え、蓄積された情報を共有し、ライフステージを通し切れ目のない支援につながるよう、適切なコーディネートを行った。子どもの認知発達の特性から二次障害を起こして学校・家庭生活の維持が困難となっている幼児、児童生徒の担任及び保護者に対して、指導や支援の対応方法について医療・福祉機関・その他の機関との連携を行った。

ウ 学校生活支援教員連絡会

各小中学校に在籍する児童生徒の学級での適応状態について、学校生活支援に携わる教職員と共通理解を図り、具体的な関わりや支援のあり方を一緒に検討した。

エ こども園特別支援担当者会

個別的対応が必要とされる幼児に関わる関係教職員と集団生活の状態や成長課題を共有し、指導方法などについて理解を図り、具体的な指導につながる手立て等の助言提案を行った。

(5) 成果と課題

本年度は、子どもの発達特性を理解し、その子どもを取り巻く家庭や学校、地域の支援機関等との連携を中心に発達支援に取り組んだ。

発達相談では、子どもの問題行動の背景には、その子に発達特性があるのではないかとという相談が増えている。それでも、単に発達特性の偏りだけでは判断が難しく、家庭状況や対人関係、地域との関わりなどの要因も複雑に絡んでいる事例もあった。また、外国にルーツをもつ子どもには、日本語の壁があり言葉の習得についての相談も増えており、支援を必要とされる子どもへの課題が、ますます多様化・複雑化している。発達検査では、結果に応じた見立てと手立てを教員と保護者で確認し、学校と家庭、そして医療福祉関係機関が連携して支援・指導できるように共通理解を図った。今後も、連携強化を図ることが求められてい

る。

学校訪問については、子どもが落ち着いて学習する機会を保障するために、具体的な手立てや支援方法についての検討を行ってきた。園訪問については、年長児を対象に、就学に向けて教職員と共通理解を図ることにより、早期に支援につなげられるようになった。

発達支援プログラムでは、友だちづくりのソーシャルスキル学習に年間通して取り組むことで、重要なスキルが少しずつ身についてきている。プログラム時や待ち時間には、グループメンバーとの会話を楽しむこともできるようになってきた。また、同年代の仲間と一緒にゲームや課題に取り組むことで、相手を意識し、競い合いや協力ができるようになり、プログラムをひとつの居場所にできるようになった。保護者交流会や先輩保護者との交流会を継続することで、保護者同士が話しやすい雰囲気になりつつある。保護者研修会やペアレントトレーニングの実施の際には、アンケートをとり、希望に沿うよう計画し、市内小学校の保護者にチラシを配布したが、参加率を上げることはできなかった。発達支援プログラム参加児童人数は減少傾向にある。この背景には、通級指導の充実、放課後デイサービス等の利用の増加の影響があると思われる。今後児童、保護者のニーズを把握し、より効果的な場の設定をしていく必要がある。

子どもの学業不振や問題行動、そして、不登校などの背景には、発達特性との関わりが否定できないため、早期発見と早期支援が必要である。また、それぞれの発達段階に応じた支援・指導を切れ目なく行うためには、今後も、保護者ニーズや地域ニーズを確認しながら各関係機関と連携していく必要がある。

4 教育相談

(1) 相談窓口

当センターでは、教育相談窓口の充実を図り、いじめや不登校、子育て、進路・学習など様々な教育に関する相談を受けることができるように、下記のとおり相談窓口を開設した。

また、悩み相談電話を開設し、電話による相談も受け付けている。

種 類	内 容	曜 日	時 間	予約
通常教育相談	教育相談員による相談	月～金曜日	9:00～17:00	不要
特別教育相談	臨床心理士による教育相談	毎週木曜日	10:00～17:00	要
夜間教育相談	臨床心理士による教育相談	原則毎週月・金曜日	18:30～20:30	要
発達支援相談	発達支援アドバイザーによる教育相談	月～金曜日	9:00～16:00	要

(2) 相談受理状況 【1月まで】

	区分	項 目	令和6年度	令和5年度	前年比較
相談 内容	電話	1 不登校	420	220	+200
		2 家庭・子育て	286	139	+147
		3 発達障害等	62	75	-13
	面接	1 不登校	1,416	1,522	-106
		2 発達障害等	835	450	+385
		3 家庭・子育て	589	302	+287
相談 対象者	電話	1 小学生	541	288	+253
		2 中学生	307	192	+115
		3 高校生	0	24	-24
	面接	1 小学生	1,721	1,143	+578
		2 中学生	1,472	1,514	-42
		3 幼児	31	48	-17
相談者	電話	1 その他	447	262	+185
		2 教師	290	119	+171
		3 保護者	108	125	-17
	面接	1 教師	1,658	1,660	-2
		2 保護者	586	356	+230
		3 中学生	438	332	+106
相談 件数	電話		849	513	+336
	面接		3,253	2,732	+521
	総数		3,671	3,245	+426

相談件数としては、電話・面談共にかなり増えた。理由は、3名のSSWが学校と連携し、こまめに電話連絡・家庭訪問等により、小学生を対象にした相談に対応できるようになったからである。また、SSWだけでなく、発達支援アドバイザーや臨床心理士等による相談も認知され、多くの新規の相談申込にも対応することができた。

相談内容については、「不登校」が前年度同様一番多い。また、「発達障害等」や「家庭・子育て」についての相談も多くなっている。不登校や家庭的な課題のある児童生徒、発達に特性のある児童生徒のために、SSWや発達支援アドバイザーが学校と密に連絡を取り、連携して支援にあたることができた。

(3) 成果と課題

教育相談や学校支援に関わる職員が、情報交換・共有し、連携しながら教育相談を行うことができている。また、学校との連絡を密にし、情報交換し、教育活動を支援できている。教育相談をきっかけに子育て支援課等の関係機関に繋ぎ、支援の輪が広がってきている。

一方、支援が必要だと考えられる事案でありながら、相談者や相談対象者に困り感がなかったり、相談者に支援について合意を得られなかったりして、適切な支援に繋がられないケースが存在する。

家庭に課題を抱える児童生徒が増加しており、ストレスを感じ、集団への適応の難しさを感じている子どもがいる。また、不登校や発達支援等、様々な支援を必要としている家庭も増加している。今後も継続して、学校を中心とし、関係機関との連携をより密にし、より効果的な支援の方策を探り、相談者や相談対象者を支援していきたい。

5 青少年育成

(1) 加西市子ども会育成連絡協議会

本協議会は、各小学校区子ども会相互の連絡調整や情報交換、地域を基盤とした子どもたちの健全育成や育成者の支援・助成等を目的に理事会を開催し、子どもの手による子ども会支援事業、オセロ大会、気球搭乗体験などの事業を実施し、子ども会活動の連携や活性化を図っている。令和8年度からの小学校再編を見据え組織の見直しを行った。

期日・場所	内 容	参加数
3/7 (木) 総合教育センター	第1回理事会（新旧合同理事会） ・役割分担 ・事業計画 ・総会について	18
4 月	総会（書面審議）	—
4/25 (木) 総合教育センター	第2回理事会 ・総会書面決議結果について ・全国子ども会安全共済について ・「子どもの手による子ども会支援事業」について	13
6/5 (水) 社総合庁舎	北播磨地区子ども会連絡協議会総会	2
7/4 (木) 総合教育センター	第3回理事会 ・「子どもの手による子ども会支援事業」について ・オセロ大会	13
8/4 (日) 善防公民館	第12回加西市子ども会オセロ大会	48
10/10 (木) 総合教育センター	第4回理事会 ・オセロ大会の反省 ・北播磨子ども会議について ・気球搭乗体験について	13
11/16 (土) 社福祉センター	第15回北播磨地区子ども会議 「北播磨の特産品『もち麦』を知ろう！」	8
12/5 (木) 総合教育センター	第5回理事会 ・気球搭乗体験について ・小学校統合後の市子連の組織編成について	13
1/16 (木) 総合教育センター	第6回理事会 ・気球搭乗体験について ・小学校統合後の市子連の組織編成について ・次年度の事業計画について	13
2/1 (土) 鶉野飛行場跡地	気球搭乗体験	99
2/27 (木) 総合教育センター	第7回理事会 ・次年度会長および役員の選出 ・総会について	13

(2) 地域ふれあい事業 (かさいキッズふれあい事業)

小学校区ごとに、小中学生を中心とした青少年の異年齢交流、異世代交流による地域活動を促し、思いやりの心、豊かな創造性や個性、さらに積極的な社会参加の態度を培うことを目的としている。地域における団体や住民と連携を図りながら青少年活動振興の基盤づくりを進め、青少年活動を核とした地域社会の活性化を進めている。

期日・場所	内 容
4/4 (木) 総合教育センター	実務者会議 委託事業の目的、内容、手続き等
市内各小学校区で 右記の行事を計画	ドッジボール大会、七夕祭り、夏祭り、秋祭り、三世代ふれあい活動、クリスマス会、ご来光の集い、とんど、なわとび大会、ラジオ体操、夏休みの学校で遊ぼう、クリーンキャンペーン、音楽会、桃子野ふれあい教室、1年生を迎える会、6年生を送る会、標語コンクール等

(3) 加西市青少年団体連絡協議会

本協議会は、4つの青少年団体（ジュニアリーダークラブ、ボーイスカウト、空手、F l e p s）の指導者によって構成され、「サマーデイキャンプ（日帰りキャンプ）」や「新春のつどい」などの活動を通して、青少年の健全育成と青少年活動の活性化を図っている。

期日・場所	内 容	参加数
4/10 (水) 加西市民会館	第1回理事会 ・総会に向けて	5
5/22 (水) 加西市民会館	総会 令和5年度事業報告、会計報告 令和6年度役員選出、事業計画、会計予算 第2回理事会 ．サマーデイキャンプに向けて	5
6/5 (水) 加西市民会館	第3回理事会 ・救急救命講習会について ・サマーデイキャンプについて	5
6/23 (日) 加西消防署	普通救命講習会	3
7/10 (水) 加西市民会館	第4回理事会 ・サマーデイキャンプについて タイムテーブル、役割分担、資材準備等について	5
8/24 (土) オークタウン加西	サマーデイキャンプ ・竹細工 ．野外料理 ・キャンドル&ランプシェードづくり	30
9/18 (水) 加西市民会館	第5回理事会 ・サマーデイキャンプの反省 ・新春のつどいに向けて	5
10/16 (水) 加西市民会館	第6回理事会 ・新春のつどいに向けて チラシ案の作成、開催までのタイムテーブル	5
11/6 (水) 加西市民会館	第7回理事会 ・新春のつどいに向けて 申請書類・準備物の確認	4

12/4（水） 加西市民会館	第8回理事会 ・新春のつどいに向けて 詳細な準備作業日程	5
11月下旬～12月上旬 小田製材、グリム、栄光社等	協賛企業への挨拶回り	3
12/14（土） いこいの村周辺 加西市民会館	クリーンキャンペーン「ポイ捨て撲滅大作戦」 門松用竹切り 「あなたが選ぶ2025年の漢字」選考会	4
12/21（土） オークタウン加西 鎮岩倉庫 加西市民会館	新春のつどい資材借受、新春のつどい準備	4
12/31（火） アラジンスタジアム 東側駐車場	新春のつどい準備 ・門松製作、会場準備	15
1/1（水） アラジンスタジアム 東側駐車場	新春のつどい	300
1/11（土） 玉野町中池駐車場	とんど焼き	14
1/11（土） 鎮岩倉庫	新春のつどい資材返却	4
2/12（水） 加西市民会館	第9回理事会 ・事業報告、会計報告について	4

ア サマーデイキャンプ

オークタウン加西で小学1年生～5年生の児童30名が参加し、野外料理、竹細工、キャンドル&ランプシェードづくりを行った。大きな怪我やトラブルもなく安全に終わることができたが、スケジュールがやや過密になり、時間が足りなかった。

イ 新春のつどい

アラジンスタジアム東側駐車場を拠点にランドマーク展望台から初日の出を拝み、お年玉抽選会や「2025年の漢字」発表などの交流会を実施した。また、キッチンカーを誘致し、300名の参加者が新年に決意を新たにした。



ウ とんど焼き

玉野町中池駐車場で、新春のつどいで使用した特大の門松や、市民が持ち寄った正月飾り・書初めなどを焚き上げ、一年間の家内安全・無病息災を願った。

（4）青年連絡会えんどれす

多くの方に世代を超えた地域のふれあいの場を提供し地域の活性化を図るとともに、青年が率先して町おこし活動を通して、若者が活躍できる街としてPRし、青年層の活性化につなげることを目的に活動している。本年度も「加西サイサイまつり」で、加西市役所議会棟を使用した「お化け屋敷2024」を開催することができた。当日には延べ796名（小学生未満94名含む）の参加者があり、大変盛況であった。

2024

参 考 資 料



加西市立総合教育センター

教育講演会

- 1 テーマ
不登校ってなんだろう？学校って何だろう？
- 2 講 師
奈良女子大学 教授 伊藤 美奈子
- 3 主な感想
 - ・学校が抱える問題に踏み込み、現場で頑張る教職員にエールをいただき元気が出た。
 - ・今後、校区や学校ごとでの研修で詳しく掘り下げることが必須だと感じた。
 - ・伴走者となれるよう子ども・保護者と向き合いたい。
 - ・実践事例に基づく根拠に説得力があった。



中堅教員研修講座

- 1 テーマ
中堅教員に期待すること
- 2 講 師
加西市教育委員会 学校教育課
課長 小坂 卓司
- 3 主な感想
 - ・社会が大きく変わる中で、魅力ある教員として自分をどう磨くかの契機になった。
 - ・中堅ということを改めて実感し、経験値を上げていく必要性を認識した。
 - ・新しい視点で自分を振り返るきっかけとなった研修であった。



若手教員研修講座

- 1 テーマ
大事にしたい学級経営のポイント
- 2 講 師
加西市教育委員会 総合教育センター
指導主事 橋本 憲
- 3 主な感想
 - ・心に響く言葉で語っていただいた今日の学びを生かして改善していきたい。
 - ・教師の見取りが甘く、ただ支援をしているようでは支援でないと感じた。
 - ・将来の姿を見据えての個々の指導の大切さを改めて学んだ。



ベテラン教員研修講座

- 1 テーマ
ベテラン教員に求められるもの
- 2 講 師
元加西市立小学校長 小林 剛
- 3 主な感想
 - ・ムードメーカーとして明るい前向きの職員室の雰囲気をつくっていききたい。
 - ・広い視野で客観的に学校の姿を見ることができるよう意識していきたい。
 - ・統合に向け、若手職員の気持ちや学校が盛り上がるよう努力したい。



教育経営講座

- 1 テーマ
がんばらない学校経営
- 2 講 師
加西市教育委員会
教育長 菅野 恭介
- 3 主な感想
 - ・管理職として、魅力ある学校づくりを目指して頑張ろう、いや、頑張らずに楽しもうと思えた。
 - ・人やモノに対する熱い思いと柔軟な思考等の必要性を改めて感じた。



事務職員研修講座

- 1 テーマ
社会保険・雇用保険について
- 2 講 師
沼澤社会保険労務士事務所
所長 沼澤 郁美
- 3 主な感想
 - ・大変わかりやすく、今後の実務に生かせる知識を学べた。
 - ・間違いやすいポイントをお話いただき分かりやすかった。
 - ・実務に直結した内容で感謝します。



管理職研修講座

- 1 テーマ
管理職に求められる危機管理能力について
- 2 講 師
兵庫教育大学大学院 教授 當山 清実
- 3 主な感想
 - ・常に危機を予測し、未然防止に努めつつ安全を最優先して迅速に判断すること、組織的対応の重要性を再認識した。
 - ・学校に求められているものの大きさを実感した。研鑽を重ねたい。
 - ・自校のマニュアル見直しの必要性を感じた。



加西っ子の学びセミナー

- 1 テーマ
全国学力・学習状況調査の分析・考察及び授業改善について
- 2 講 師
加西市教育委員会 学校教育課
主任指導主事 國野 大樹
- 3 主な感想
 - ・中学校の学力の傾向も知ることができ、そこにつながる小学校での指導の参考になる。
 - ・この分析を基に、どのような授業改善を行うべきか考えることができた。



授業改善実践講座（１）

1 テーマ

授業づくりの基礎・基本

2 講師

兵庫教育大学 教授 山内 敏男

3 主な感想

- ・ねらいと実際のアプローチ、子どもの受け取りのズレについて詳しく学べた。
- ・省察をすることでズレに気付き、直すべきところを明確にできると感じた。理想を持つことができ、今後の授業に活かしたい。
- ・今までにない新たな視点を持つことができた。何度も検討を重ね授業改善に努めたい。



授業改善実践講座（２）

1 テーマ

子どもの主体的な学びを促す授業づくり

2 講師

神戸学院大学 教授 大西 慎也

3 主な感想

- ・問いを生ませるしかけの例を知ることができやってみたくなった。
- ・生徒に「知りたい、学びたい」と思わせるには深い知識と工夫が必要だと感じた。
- ・主体的な学びを促す授業づくりのヒントがたくさんあった。



生徒指導講座

1 テーマ

『生徒指導提要（改訂版）』が示すこれからの生徒指導の進め方

2 講師

関西外国語大学 教授 新井 肇

3 主な感想

- ・改訂の背景から、現場に必要な取組など大変参考になる話だった。
- ・生徒指導の在り方を学校生活の核である授業づくりや特別支援の視点を絡めた内容に納得した。
- ・本質的な話を系統立てて説明いただき、共感でき、分かりやすかった。



教科指導講座（書写）

1 テーマ

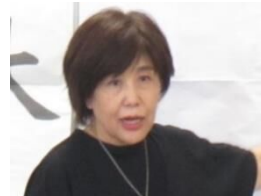
文字を大切にし、気づき、楽しみ、生かす書写教育

2 講師

神戸女子短期大学 教授 山内 有香子

3 主な感想

- ・授業で使える実践的な内容であった。
- ・めあてをはっきりさせ指導・評価することの大切さを再認識した。
- ・書写を通して、人間形成を図っていくためのヒントをたくさんいただいた。



教科指導講座（算数）

- 1 テーマ
問いをもつ・挑戦する・創造する 算数科の授業づくり
- 2 講師
兵庫教育大学 教授 加藤 久恵
- 3 授業者
北条小学校 教諭 金川 祥平
- 4 主な感想
 - ・帰納法・演繹法について少し整理ができたと思う。
 - ・図形の指導方法について新たな学びがあった。
 - ・遊びの中で算数的活動を取り入れることを今後の授業に生かしたい。
 - ・今後推進する図形領域の話が聞けて良かった。



教科指導講座（図工・美術）

- 1 テーマ
新しい教科書を使った授業づくり
- 2 講師
一般社団法人示現会
兵庫支部長 高見 雅博
- 3 主な感想
 - ・図工は本当に楽しい教科だと再認識した。安全に気をつけ子ども達が伸び伸びと活動できる授業を行いたい。
 - ・毎年新しい刺激をもらえています。



教科指導講座（数学）

- 1 テーマ
個に応じた指導を充実させ、自ら学び自ら考える力を育成する
- 2 講師
兵庫教育大学 准教授 川内 充延
- 3 授業者
北条中学校 教諭 宅見 慎司
- 4 主な感想
 - ・子ども達の基礎基本を試しながら思考判断力を高められる良い教材だった。
 - ・他の先生方のご意見が参考になった。
 - ・指導の準備や計画性を学ぶことができた。



教科指導講座（理科）

- 1 テーマ
生活に結び付く理科授業を通して好奇心や探究心を育む
- 2 講師
元加西市立中学校教諭 永長 英夫
- 3 授業者
泉中学校 教諭 鈴木 沙希
- 4 主な感想
 - ・小中学校の先生方から様々な視点のアドバイスがあり大変有意義であった。
 - ・講師先生のお話がとても興味深く、ベテランの知恵や技能の伝達の貴重な機会だ。



教科指導講座（保健体育）

- 1 テーマ
一人一人の個性を引き出し、意欲的に取り組む
体育授業
- 2 講 師
元加西市立中学校長 山田 明
- 3 授業者
加西中学校 教諭 松本 沙奈
- 4 主な感想
 - ・小学校や園の先生方に授業を見ていただくことでさらに連携が進むと感じた。
 - ・改めて体育を中学で教えることの大切さと責任を感じた。将来に生きる力を育成したい。



教科指導講座（英語）

- 1 テーマ
外国語教育・英語教育指導力向上に向けて
- 2 講 師
ボーダーリンク 市内ALT
- 3 主な感想
 - ・Activity のアイデアを得ることができた。中学生や他学年を指導されている方と交流でき違う視点で授業を考えることができた。
 - ・目的を明確にさせ、楽しいだけでなく身につけさせるべき内容を考え共有することが必要だ。



小学校道徳授業実践講座

- 1 テーマ
より良い生き方を求め、進んで学びを深め積み重ねながら児童の道徳性を育む
- 2 講 師
桃山学院教育大学 准教授 龍神 美和
- 3 授業者
賀茂小学校 教諭 藤森 正徒
- 4 主な感想
 - ・授業の在り方、児童の思考への迫り方を学んだ。
 - ・めあてを柔軟に持つことで、授業の幅の広がりや楽しさが出ると感じた。
 - ・子どもたちのモチベーションを高めるヒント。



中学校道徳授業実践講座

- 1 テーマ
対話的な学びを通して自分を見つめ より良い生き方を考える道徳授業の充実
- 2 講 師
兵庫教育大学 教授 谷田 増幸
- 3 授業者
加西中学校 教諭 岡本 隆宏
- 4 主な感想
 - ・道徳的価値について理解が深まった。道徳の小中合同研修はとても良いと思った。
 - ・深みのある思考が見られて驚いた。主題に迫る発問はむずかしい。



教師力向上研修講座（１）

- 1 テーマ
続・非認知能力の育成
～教師の非認知能力をみがく～
- 2 講師
岡山大学教育推進機構 准教授
兼 All HEROs 合同会社代表 中山 芳一

※台風 10 号接近のため中止

情報教育研修講座

- 1 テーマ
ICT教育の今とこれから
～より良い未来を生きるために～
- 2 講師
静岡大学 准教授 塩田 真吾
- 3 主な感想
 - ・情報の授業をすることは難しいと後回しになっていたがギガワークを通して少しの時間でもやっていくことが大切だと思った。
 - ・学校生活を送る上だけでなく、私生活を有意義に過ごすことも大変考えさせられた。タイムマネジメントや余暇の過ごし方など管理職とも相談して実施していきたい。



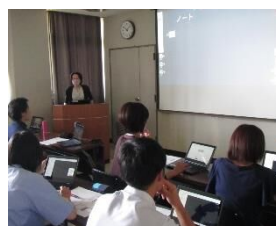
教師力向上研修講座（２）

- 1 テーマ
対話的な学び・協働的な学びを促す授業づくり・学級づくり
- 2 講師
兵庫教育大学 教授 真田 穰人
- 3 主な感想
 - ・安心して学べる環境や共同学習について多くの意見を聞くことができた。
 - ・対話的な学びを授業に取り入れるタイミングについて気づきがあった。
 - ・たくさんのアクティビティを知ることができ今後の対話の活動に活かしたい。



ICT活用による授業改善講座（１）

- 1 テーマ
あなたにもできるICT①
～ICTで授業をアップデート～
- 2 講師
ICT支援員
- 3 主な感想
 - ・とても実践的でわかりやすかった。今後多くの機能を活用していきたい。
 - ・分からないまま使っていたのですが、細かいところがよくわかった。
 - ・使い方をすることで実際に授業に役立てたいと思った。来年もこのような研修がありがたいです。



ICT活用による授業改善講座（2）

- 1 テーマ
あなたにもできるICT②
～ICTで授業をアップデート～
- 2 講師
ICT支援員
- 3 主な感想
 - ・今までなんとなくで操作していたが、基本的な使い方を教えていただいたので今後の業務に活用できそうです
 - ・知らないことがたくさんあり発見続きで面白かった。



特別支援教育研修講座（1）

- 1 テーマ
心通う学校をつくるために
- 2 講師
兵庫県教育委員会 播磨西教育事務所
学校問題サポートチーム
特別支援教育推進員 原田 芳彰
- 3 主な感想
 - ・応用行動分析学を知り、個別の指導計画の作成に役立てることができそうです。
 - ・とても分かりやすく、保護者目線と教師目線の意見が聞けて勉強になった。
 - ・保護者の気持ちに寄り添い、共感しながら関係をつくるのが連携の第一歩だと思った。



特別支援教育研修講座（2）

- 1 テーマ
凸凹がある子どもやその保護者と向き合う教職員のところがまえ
- 2 講師
社会医療法人 恵風会高岡病院
児童精神科医 三木 崇弘
- 3 主な感想
 - ・目の前の子どもをよく見て、成長への支援をしていきたいと思った。
 - ・医者から見た学校現場や子ども、保護者について語っていただき、教員の視野の狭さを改めて感じた。
 - ・目の前の子どもから学ぶということを大切にしていきたい



特別支援教育研修講座（3）

- 1 テーマ
発達障害とコミュニケーション
- 2 講師
ひょうご発達障害者支援センター クローバー
加西ブランチ 相談支援員 川野 みか
- 3 主な感想
 - ・行動の裏にある子どもたちの実態を見ていく必要を感じた。
 - ・それぞれの障害の特性に合わせて、理解を深めながら関わっていく必要性を再認識した



児童生徒支援講座

- 1 テーマ
子ども達のよりよい支援のあり方と家庭との連携
- 2 講師
総合教育センター 臨床心理士 橋根 千尋
- 3 主な感想
 - ・心の健康のためには、周りの環境はもちろん、本人が自分の気持ちを理解することが大切だと感じた。
 - ・学校だけでなく保護者や関係機関と連携するとともに、何よりも子供を真ん中にして様々な視点で考えていけたらと思った。



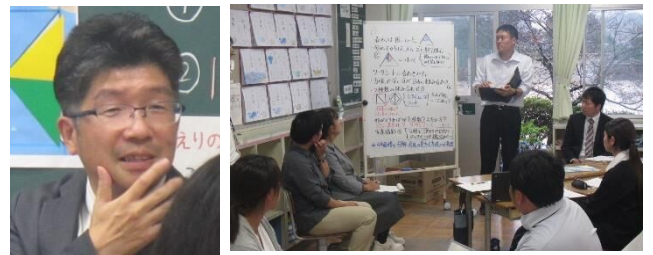
授業改善講座（１）

- 1 テーマ
ファシリテーションを活用した授業改善
- 2 講師
株式会社ひとまち 代表 ちょん せいこ
- 3 主な感想
 - ・意見を言いやすいプロセスをつくるのが大切だと思った。可視化、可聴化を試したい。
 - ・ファシリテーターであることが子どもにとってモデルになる。ともにファシリテーターのマインドをもって授業を進めていきたい。
 - ・授業づくりにも職員研修にも使っていきたい。



授業改善講座（２）

- 1 テーマ
子どもの姿を通して授業を語る
- 2 講師
慶應義塾大学 教授 藤本 和久
- 3 主な感想
 - ・願いをもって授業をつくることの大切さを再認識した。
 - ・講義内容にたくさんの学びがあった。子どもの見取り方をもっと聞きたかった。先生方の熱心な指導が図形領域を苦手とする児童の深い学びに繋がっていることが理解できた。



幼小連携講座

- 1 テーマ
日頃の遊びの中から幼児の育ちを考える
- 2 講師
兵庫教育大学 講師 水落 洋志
- 3 公開保育 各こども園・幼児園
- 4 主な感想
 - ・保幼小特のつながりの大切さと同時に現状の連携の不足を実感できた時間だった。
 - ・保育教諭と小学校教諭のディスカッションがよかった高学年担当の先生方とも話せる機会があればと思う。



幼児教育研修講座

1 テーマ

学びをつなぐ幼小連携

2 講師

兵庫教育大学 教授 鈴木 正敏

3 主な感想

- ・ 幼児期の学びの芽生えから、小学校での自覚的学びへの成長のつながりについて多くの事例を踏まえ教示いただき、こどもの育ちを見るヒントをいただいた。
- ・ 日々心掛けていることを再認識でき、明日からの保育に活かします。こども園を知ってもらうため小学校の先生方の参加も期待します。



学力向上研修講座

1 テーマ

子ども達が主体的な学び手となる授業づくり
～『けテぶれ』実践を通して～

2 講師

葛原学習研究所 所長 葛原 祥太

3 主な感想

- ・ 本を読むだけではわからない教師の受け取り方や役割が理解できた。
- ・ けテぶれを実践しているが交流会をやりたいと思った。
- ・ 質問にも丁寧に対応いただき、明日からもう一度基本に立ち返ろうと思った。



イングリッシュキャンプ

1 テーマ

グローバル社会に対応できる英語力の育成

2 講師

株式会社アチーブゴール 契約講師

3 主な感想

- ・ 子どもたちが英語で話そうという姿勢やスピーチを聞き、英語環境での学習や活動は子どもたちの英語力向上、自立心の成長につながると感じた。
- ・ 英語を学ぶ楽しさと自身の成長のため、目的を理解させて参加募集を工夫する必要がある。



学校運営協議会委員研修

1 テーマ

多可町立八千代小学校における学校運営協議会の取組について

2 講師

多可町教育委員会 学校教育課長 恋田 祐爾

3 主な感想

- ・ アンケート実施せず。



令和6年度

インターネットトラブルから 子どもを守るために

加西市立総合教育センター



インターネットやSNS等により便利な生活になりましたが、使い方を誤ると依存やトラブル、犯罪の被害者にも加害者にもなってしまいう可能性があります。

☆SNSで・・・

- ・不適切投稿（悪ふざけ、ノリや勢いで）
- ・個人が特定できる写真、動画の投稿
- ・「なりすまし」の増加
- ・校内盗撮、合成写真の拡散
- ・SNS上で知り合った人と出会い、トラブルに



☆オンラインゲームで・・・

- ・長時間の使用
- ・違法行為アカウントとの接触による金品授受
- ・ゲーム内での金銭やギフトの強要



子どもが巻きこまれると

- ・ケンカ・いじめの原因
- ・被害者にも、加害者にもなる可能性（暴言、脅迫、児童ポルノ、侮辱罪、盗撮罪等）
- ・ストーカー・誘拐・性犯罪の被害者
- ・家出・金銭トラブルの原因
- ・心・体調にも悪影響（依存症、睡眠不足、家庭内暴力、ひきこもり等）
- ・進学・就職にも影響

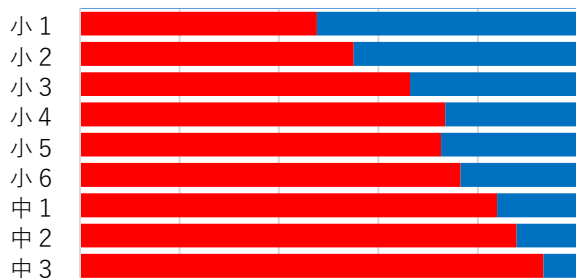


加西っ子のインターネット端末の使用状況と家庭で気をつけること

（令和6年度加西市小・中学生インターネット等の使用に関するアンケート結果より）

自分専用の端末の所持率

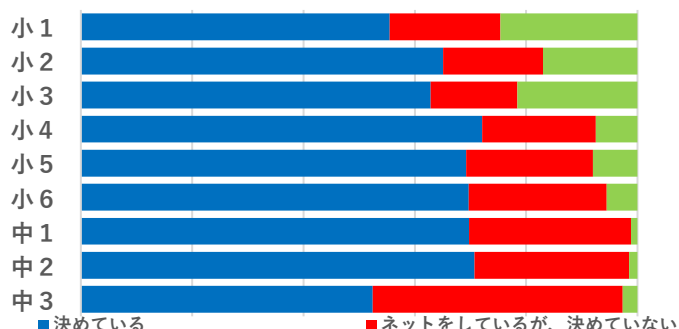
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 持っている ■ 持っていない

ネットやゲームの決まりや約束

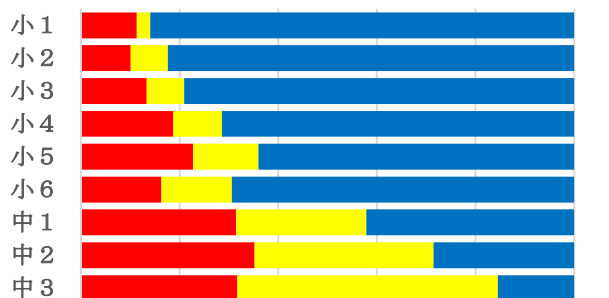
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 決めている ■ ネットをしているが、決めている ■ インターネットはしていない

SNS個人アカウント所持率

0% 20% 40% 60% 80% 100%

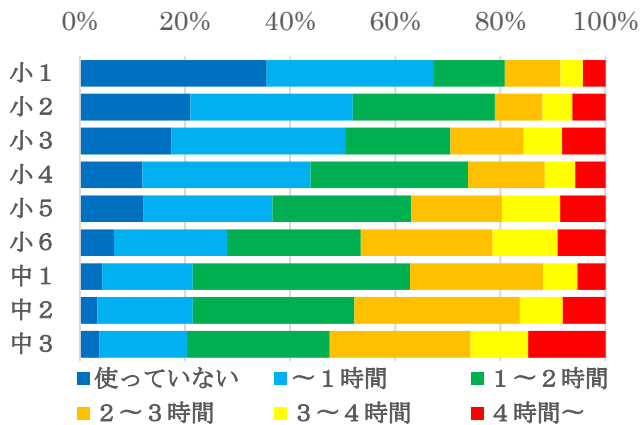


■ 1つ持っている ■ 2つ以上持っている ■ 持っていない

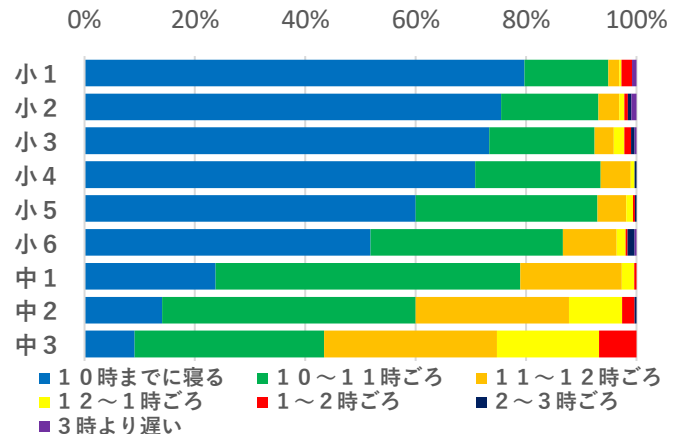
保護者が・・・

- ☐ 子どものSNSやゲームの利用方法、利用時間、やり取りの内容について、関心と責任をもつ。
- ☐ フィルタリングで我が子を守る。
「青少年インターネット環境整備法」〈2018年施行〉
- ☐ SNSには年齢制限があり、ほとんどが12歳以上（17歳以上もあり）。不特定多数の人と容易につながる危険性を認識する。

学習以外でのネットの使用時間（平日）

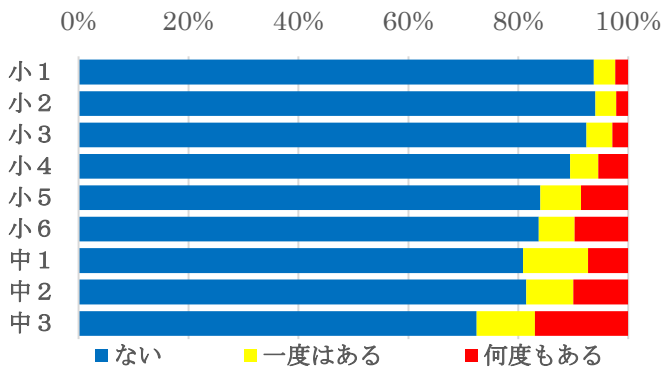


就寝時刻（平日）



○1日に1～2時間くらいが適切、それ以上使用している子どもは依存傾向にあります。
○ゲーム・SNS依存にならないために、家庭で約束やルールを決めることが大切です。

SNS上の知らない人とのメッセージや写真のやり取り経験

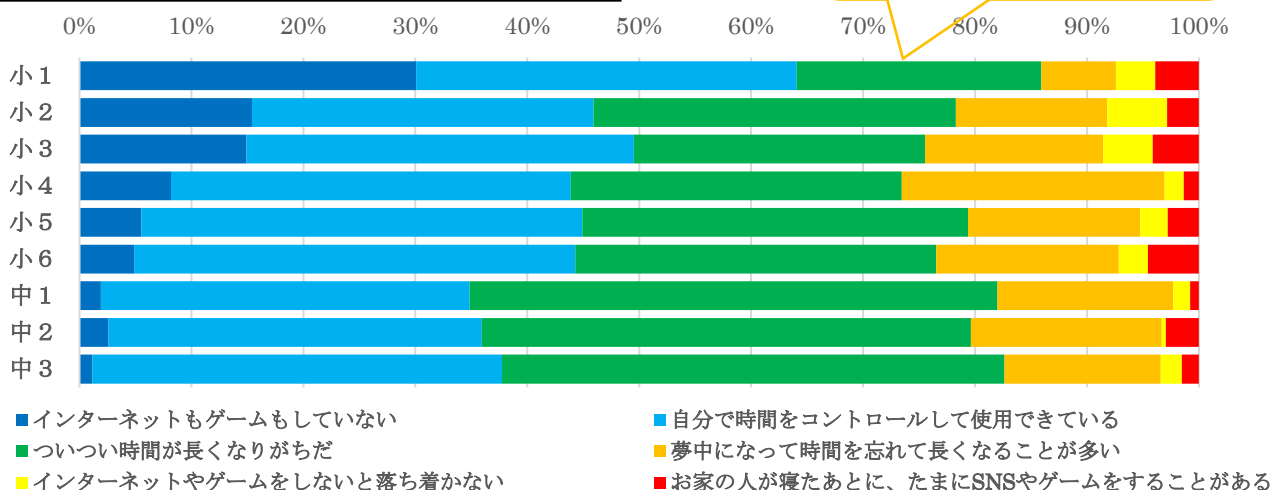


発生しているトラブル・危険性

- ・知り合った相手に会いに行き家に連れ込まれる
- ・裸など自分のプライベートな画像を要求される
- ・ストーカーや連れ去りの被害のきっかけになる
- ・薬物や闇バイト等の勧誘につながる

※実際にネット上で知り合った人と出会っている子どももいます。

インターネット、SNSやゲームの使用時間について、よくあてはまるものを1つ選ぶ



約半数が、自分で時間のコントロールができていない状況

こんなことはありませんか？

- ☐ ゲーム中に、暴言を吐くなど、感情のコントロールができなくなることがある。
- ☐ ゲームやネットが出来ないと不機嫌になったり、暴れたりすることがある。

★ネット依存傾向にある子どもは、トラブル等に巻き込まれる危険性が高いことがわかっています。

家庭でできること

① 家庭の約束やきまりを決める

スマートフォンやタブレット等の購入後3か月以内に8割の子どもが何らかのトラブルに巻き込まれているというデータもあります。購入前に約束やきまりを話し合っておくことが大切です。

＜ネットとゲームのつきあい方・ルールづくり＞

3つのポイント

1 家族で話し合う

必ず子どもと保護者で話し合い、お互いに納得したルールをつくりましょう。

2 定期的に見直す

子どもを取り巻く環境の変化に応じて、定期的に見直しましょう。

3 制限できるツールを活用する

危険なサイトやアプリをブロックしたり、ネットの利用時間を制限できる「ペアレンタルコントロール」を上手に活用しましょう。

兵庫県HP「話し合ってみよう！ネットとゲームのルールづくり」より



一度、ご家庭でお子様と、ネットやゲームの利用について話し合ってみてはどうでしょうか？



※下記URLから、ワークシート（兵庫県HP内）はダウンロードできます。
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk16/documents/smaphrulepointr6.pdf>

② フィルタリングやペアレンタルコントロールを利用

オススメ！

フィルタリングやペアレンタルコントロール機能でできること

- 有害・不適切なサイトへのアクセス制限
- アプリやサービスの課金・購入の制限
- アプリ等でのダウンロードの制限
- 使用時間の制限
- 年齢にふさわしくないゲームの起動を制限
- ほかの人とのコミュニケーションの制限
- 起動利用状況の確認
- どこでもフィルタリングの設定が可能
- 年齢に合わせた、フィルタリングの強度の設定



フィルタリングサービスやペアレンタルコントロール機能の設定方法

※詳細については、使用端末やゲーム機のホームページ等でご確認ください。QRコードから確認できます。

①携帯電話事業者が提供するスマホのフィルタリングサービス

○あんしんフィルター



- ・各事業者のHPよりアプリをダウンロード 下のQRコードからもダウンロード可能
- ・保護者のスマホ等から設定可能 (NTTドコモ) (au) (Softbank)
- ※詳細はHPで確認



②OS事業者が提供するペアレンタルコントロール機能

○Apple (iPhone、iPad) の場合



- ・スクリーンタイム
- ※設定アプリからスクリーンタイムを選択して設定



○Google (Android) の場合



- ・Googleファミリーリンク
- ※アプリをダウンロード
- Chrome bookなどのGoogleの端末にも設定可能



③ゲーム機のペアレンタルコントロール機能

○Nintendo みまもり Switch

- ・スマホにアプリをインストール、またはサイトから設定



○PlayStation®Safety (保護者向け)

- ・サイトから設定



「このスマホは私(親)が買いました。あなたに貸しているものです。」(「スマホ18の約束」より) 買い与えるのではなく、保護者が買って貸しているのだという意識を子どもにも持たせましょう。持たせた以上、保護者が責任を持って管理することが何より大切です。

☆お子様からインターネットのこと(不適切な書き込み、トラブル、いじめ等)で相談を受けられ、対応が難しいと判断された場合は、迷わず下記へご相談ください。

相 談 先	電 話 番 号
兵庫県警察本部サイバー犯罪対策課	078-341-7441(代表)
兵庫県警察本部 少年相談室ヤングトーク	0120-786-109(平日 9時~17時半)
ひょうごっ子悩み相談センター	0120-0-78310(365日・24時間)
県精神保健福祉センター	078-252-4987
こころの健康電話相談専用ダイヤル	(火~土 9:30~11:30、13:00~15:30)(祝日除く)
ほっとらいん相談(青少年のための総合相談)	078-977-7555 (月・水・土 10:00~12:00、13:00~16:00)
加東こども家庭センター	0795-27-8250
加西市消費生活センター(※課金のことで困ったら)	0790-42-8739(平日 9時~16時半)
加西市立総合教育センター相談窓口	0790-42-3730(平日 9時~17時)